

河内國名石鑑

一

ル 4
1274
1





河内國名所鑑序

河内國名所鑑序

河内國は神武天皇東征しぬる時戊午

の歳春三月は此國の草香の里にいたりたまひ

彦已曾^{こり}保理^{ほりのこと}命^{おふ}を^{くわ}九河^ち内の國のこやつことな

給へる事聖徳太子の旧事記にゆされ、河内の

名既日人王のはしめありき反正天皇の

元年冬十月柴籬^{かき}の宮に都しぬるこれ

此國に都うつしたまふはしぬる事日本紀

に見したり元明天皇の御宇に諸國の國

里の名をさためぬふ日は河内の國和泉を
かねてひとつ國なりしを元正天皇の靈龜四年
四月甲子の日大鳥日根和泉この三郡を割て始て
和泉の國を分たれたるよし聖廟の類聚國史よハ
のせられつ延喜の民ア式ハ大錦郡石川等々へ
て十四郡と云ゆその中に丹比を分て丹南
丹北と云と源の順の和名集に表るしてその
在郷の名具つぎにのせるといへとも其後の世々に
増ま加くる所の名あけてつくしかたハ猶諸社諸

寺の来歴由緒諸書に見たる事亦あけて
いひかたしおなし國志紀郡柏原の里三田氏淨久
耳順みまゆんのよひひ過て聞きをき見みゆる所々の来
由ゆを考くへて河内國名所鑑となつてきて
又梓あしをえりて世はたこなはんとす予はこひて
序つくらしむむかし元明天皇の和銅年
甲子風土記をつくられてわか日の本六十餘國
の郡郷のゆへ寺社のおこり委たしと云々考る
ざる、といへと或ハ秘をかくれ或ハ久しきにちり

うせて今の世より出雲豊前の風土記わつかよ
 のこれり河内の風土記有もやとらんいまた見
 きたとひありといふとも上古の記のみ名て
 かく中古以来の目もちかき事はいかてとるへ
 き三田氏か國よ功あると鉄くろかねの益えきにほきに
 こかぬのたくれたるも志かさるかよくならん
 かしこいにおゐて序を延寶七年卯月
 廿二日落下の季吟

河内名所記



石川郡分

- 金剛山こんかうせん 葛城かつらぎといふ
- 千早城ちはやのじやう
- 下赤坂あかざか
- 甲取坂かふとりさか
- 藤林ふぢばやし
- 屏風塚ひやうぶづか
- 出合てあひ
- 一本戸口いっぽんぐち
- 酒堂寺しゆだうじ
- 國見城くまのじやう
- 甘南備かんなんび
- 佐備妙見寺さへみせうけんじ
- 竹谷たけや
- 河内觀音寺かうちくわんおんじ
- 中村なかつむら
- 百田ももた
- 龍泉寺りゆうせんじ
- 毛人谷けあひたに
- 富田林とんだはやし
- 南別井なんべつゐ

猫路山

若山

本見山

上赤坂

楠正成石塔

鼓が尾

水越峠

水分神社

水分谷寺

北水分超正寺

河野邊西福寺

北別井

大伴

東西条落合河

石川

白木観音寺

平石城跡

北加納法花寺

梅川

南加納

寺田

大ヶ塚

芥生谷

馬谷

木林屋

神山

東条川

寛弘寺

日出目光明寺

中津原

小吹蓮花寺

菖蒲が堂

観心寺

是ハ錦部郡也

一須賀

山城

持ノ尾

弘川寺

畑村

高貴寺

新堂

粟か池

喜志櫻井

下水分神社

附岩船明神

金剛山

それ金剛山ハ大和河内西國にかゝりし名山なり

諸木未けりかつらぎの神とてかたちおそるべき山

の神おほしきしけるとぞ然るを役の行者孔雀明王の呪を

持五尺の雲々のり仙府に優遊し閣上り峠の北の山獄

て鬼神をとらへ眷属として諸山を開きあふと也

中にも比葛城山へ最初分入開闢志たまふと也本堂ハ

南むき本尊ハ法喜菩薩不動明王藏王権現御座此

ほりきほさつと申ハ花嚴経の文ハ於南海中一有淨土名

金剛山法起菩薩常在説法志たまふとあり五眼六臂

のほさつなり御まなこ五ッあり御手六ッあり左の御手

三つよき人こきい弓右の御手三つ蓮花五鈷矢を

もちあふ御長一丈余あり五穀を守りあふくほさつ

なりとて毎月うしの日の縁日に冬りあり殊に六月七日

あんの行者だりのむかひは石のほうで人有葛城七大

金剛童子則是也此御前にて柴燈の護摩の行ひ有

諸人参詣の群集をなむ志か身とも女人ハけつかいの山也

大黒堂あり三十八社あり関伽井あり六坊ありかつらぎ

山ともいふ一乗山ともいふ寺号ハ轉法輪寺院からハ鼠

上乗院大日の瀧あり水分の宮より本堂へ六十六町
森屋村より本堂へ七十八町有

酒堂寺ハ本堂より十八町成亥の方也水分の上道有

千早の城ハ本堂より十八町ひつさるの方なり森屋村ノ
方なり

狂奇

法橋奇慶

老の身も金剛山へのほろへーほうきほさつを杖に頼て

同

貞室

長旅まつかいまりつ、籠ちんもえんかうせんもたてのほれる

同

友和

よりえて金剛山よりなかむれハ胎藏かいと西を志ら雲

同

每雄妻

塵つもし山となりある證據ハほうきほさつの嶺ままおを

同

宗音

長閑なる金剛山のうしの日にちかる、雪やよたれたらしく

同

一有

地水火風空よよそへて御ほさつの御目も五つ有明の月

同

可清

高くそひえ木の葉黄色に成行ハ是や金剛子丈の峯

同

正音

穂まほうきほさつの稲のさかゆる、金剛せんの守りあるゆへ

同

清風

金剛山かちやはだしそうしの日につこのつてのほろすねいね

山の名の金剛童子かちこ櫻

梅翁

佛の座と云草を見て

豊後玉采

北方や金剛せん躰のほとけの座

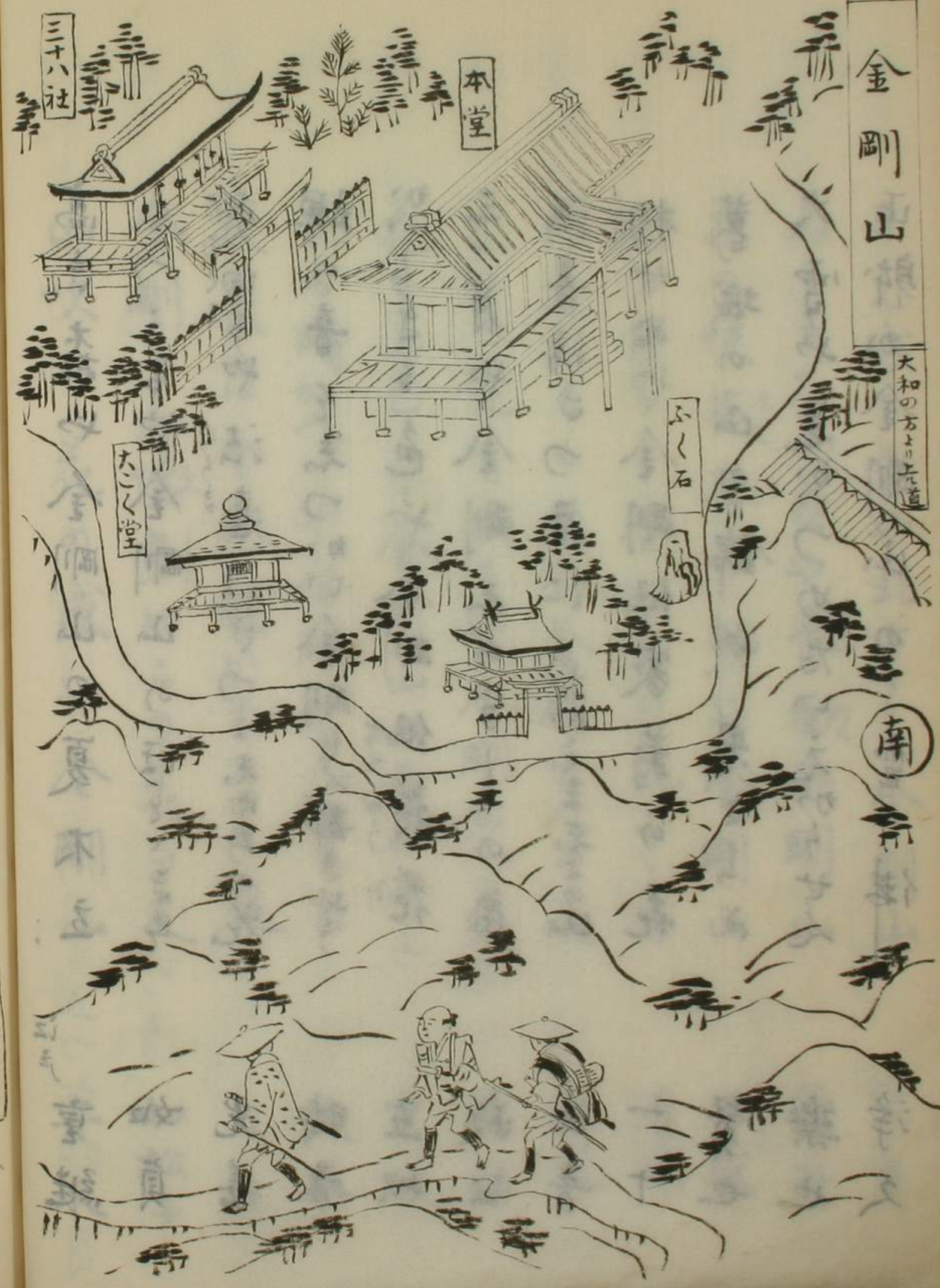
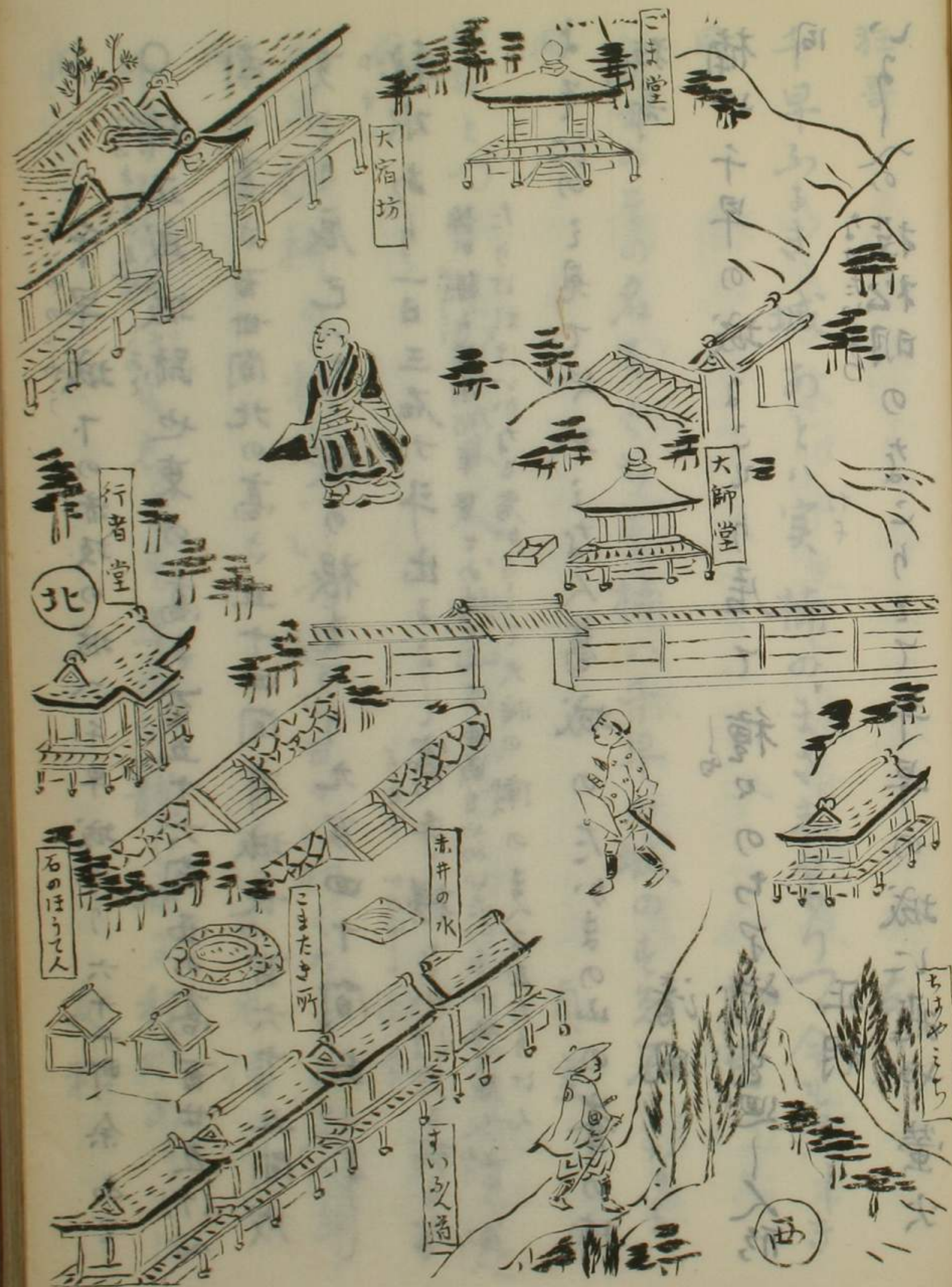
正信

雲のあしふこかきめたり金剛山

一志

きえ残る雪や北方より金剛山
 栄貞
 みどりたつ杳や青面金剛山
 葦葉
 花の咲本有の躰や金剛山
 正盛
 風はちらし金剛山の花ころる
 清次
 けたかくも咲や金剛せんの花
 正之
 木から花を出せや金剛せん術
 清勝
 花をみむな金剛山の雲のあし
 雲紙
 花の時久しや金剛せん貫目
 友好
 散敷は金剛壇かそちの庭
 久任
 金剛の不懐身やこの花の友
 如松子
 女水火山吹の花の盛や金剛山
 安求

高き木林や金剛山の夏木立
 江戸 重継
 くつうるや金剛山のほととぎす
 如貞
 手向るや法喜ほさつと志ゆろの花
 光善
 蟬の音そ志つかい金剛せん部きやう
 時春
 かいらさる色や金剛仙翁花
 立以
 三ヶ月や金剛山のうしの角
 政公
 法喜ほさつ月にいおかえまよの山
 正音
 朽せぬや金剛仙家菊の花
 一十
 葛城の山の錦や鬼さしき
 賛也
 大雪や是かつめたいえかうせん
 樂也
 正躰か金剛山の雪佛
 浄久



千早城ちやのしやう下の赤坂の城へ千早城より六十一町余あり

○楠正成城跡也東の高たか百五十六間西の高たか百廿五けん

南の高たか百世間北の高たか五十四間有城長なが百六十五間成

亥より辰己へあり城の根まはり九百四十間ありよし

秘水ひすいあり一日三石六斗出るよし寄手よせて梯かかけをかけたる所ところ有

楠が謀はかりごと諸国の軍勢せめあくんて合戦をやめたつらま城を守り上あがて居たりけ礼れいはいかなる者かよして大將の陣まゐりのまゝを立たりけん

よそにのこ見てややいな人葛城くさきのたかまの山の峯の楠

狂哥

清風

楠や千早の城しろはこもり居て種しゆ々のちまやくを廻まわし人形

同

正明

いづへの投な松明たいまつのなこりとして千早の城に飛とや螢火

狂哥

友和

千早ふるま城しろあとい実けみ楠のまさ志しよりつ今も涼すずき

同

在生ざいせい

武士のその名もくちを楠の千早の城のまゝ石いしとなる

同

貞室

めおとつきてから栄人さかひ此山のまげこのうちてちはやするん

同

政弘

千早振神の秘水ひすいいつ追おひ日ひにわくなり三石六斗

同

元信

千早ふる神代もあらしを正成か籠かごし城しろは秘水ありとは

同

友和

海くくな所ならぬと千早に三石六斗ひき出せよ

千早の釣へりり千早か城のはる霞天満 政長

千早ふるさいやくもの木か花軍 久任

神風か千早か城の花いくさ 芳昌

せめて見ん跡もちはやの花軍 立次

兵糧かちはやか城より米櫻 政公

千早もやよするてさちう花軍 友和

きこみらや千早の城のよらい草 辯愚

楠や夏木立ふるちはやの城河内黒谷 正次

くもの木か千早て名乗時鳥 政公

火矢射るか千早か城の飛螢 歩月

夕たちや千早ありまゝ軍神正味 忠正

山人の足手もちはやきりく正味 忠正

千早ふるかこてふせく寒さ哉 正寛

楠のおよりつよひやちはや炭 貞可房

千早ふる雪や真城山の景 義之

千早ふる神の巾帯か雪の竹 政公

泉もや三石六斗はかりと 如真

夜の雪や千早か城のかく水 友好

ちはやふる雪より猶涼埋去井 常政

○下の赤坂楠の枝城也

東高廿五十間西高四十八間北高六十六間南八山つゝき也

城の長南北へ式百四十三間横十五間あるより前の谷川に数
万ある石の寄手をなけあてし石といひ傳へ侍るなにかい 投懸三人此城赤坂へ来て打死

天王寺石の鳥居左の柱に武藏國住人見の甲恩とん何生年七
十二赤坂の城へ向て武恩のため討死はると書て哥一首書付たり

花さかぬ老木の櫻朽ぬともその名ハ若こけの下にかくれど

右の柱に相模國住人本間九郎資貞が嫡子源内兵衛資忠生年十八歳父
か死骸を枕として同戦場を命を止め畢ぬと書て哥一首書付たり

あて表はけ子を思ふ衛やい迷ふらん六の街ちまたの道志るせん

狂哥 貞室

ときのことあけてせめし庭鳥のあかき山かきの城の寄手よせが

同 正利何列山田

山の名ハ赤坂なり八正やいの軍の血もや色まさるらん

同 弘重

むかしくまのあつたつわられつの人ルや猿の尻のあかき

同 林城

旗色ルさそ赤坂の軍場いくさばは今さへ風は草すりのをと

同 政公

ほのくと赤坂山の秋風に散一葉の船おそたれふ

赤坂のたかひや今鶏とりありせ 意朝

のむ人の魚かほ赤坂やはな見酒 周國

赤坂とやこも表らも堂哉 重次

露霜のあかきかとなす紅葉哉 久任

赤坂や火とるも暮のむつの花 清勝

狂歌 ○甲取坂

正音

名よしおふ愛もこふひかけきよき甲取坂の月を三保の

同

久任

志ころよりかふとり坂のたかひ景清は猶もさる正成

たかひ甲取坂の花いくさ

吉方

降参か甲取坂のはな軍

良長

のほるもかふとり坂や岩つじ

意朝

霧拂ふ甲取坂や勝軍

草榮

志ころなりや甲取坂の三ヶ月

重次

○藤林

楠かちからこふならん藤はやし

政弘

花の浪うつらたいこか藤はやし

利光

○屏風塚

霞野に旅寝や枕屏風つか

仙野

土筆出るハ繪筆かひやう風つか

及次

屏風塚は飛や揚羽の蝶つがひ

陸玄

咲花も風はちとひやう風つか

伊次

花見酒や岩かぬまくら屏風塚

利房

色々花は短冊ひやう風つか

義之

花の袖引ても見たや屏風塚

政長

山吹の盛や金のひやうふつか

及次

姫ゆ里の一間所かひやうふつか

吉方

金物かほたるのひかり屏風つか
 唯正
 初嵐ふせけや里のひやうふ塚
 忌水
 女郎花の化粧所か屏風つか
 重次
 屏風塚の陰かや花野の草つじ
 良長
 ひやうふ塚は露はきらめく金具哉
 可次
 野ら吹や草をかつての屏風塚
 政長
 紅葉々々を繪といはん屏風塚
 義元
 屏風塚はふる薄雪や銀砂子
 伊次
 つむ雪や白張となを屏風塚
 久任
 ○ 出合と云所下の赤坂の邊也 諸國の軍勢の中へ楠の勢
 三方より出合たかひ軍は勝し所なりと

狂哥

楊貴妃も星もあひつれ初秋の七日の夜半に出合けんそう玄宗

同

夜るの殿の火とも道まかへるは出合ものなり政弘露の福妻

出合かいら打てこそ見めついで鼓草 浮萍子

敵かた爰そ出合の花軍 清信

連哥しや出合遠近そんきん花むしる 政長

おもふ人と出合まうての花見哉 定廣

花の匂は互たがいの時直ときか出合から 忠幸

あつきりとあさき櫻あひや出合あひ深 好貞

ほしときを鳴時月は出合かな 意朝

正音

政弘

天満

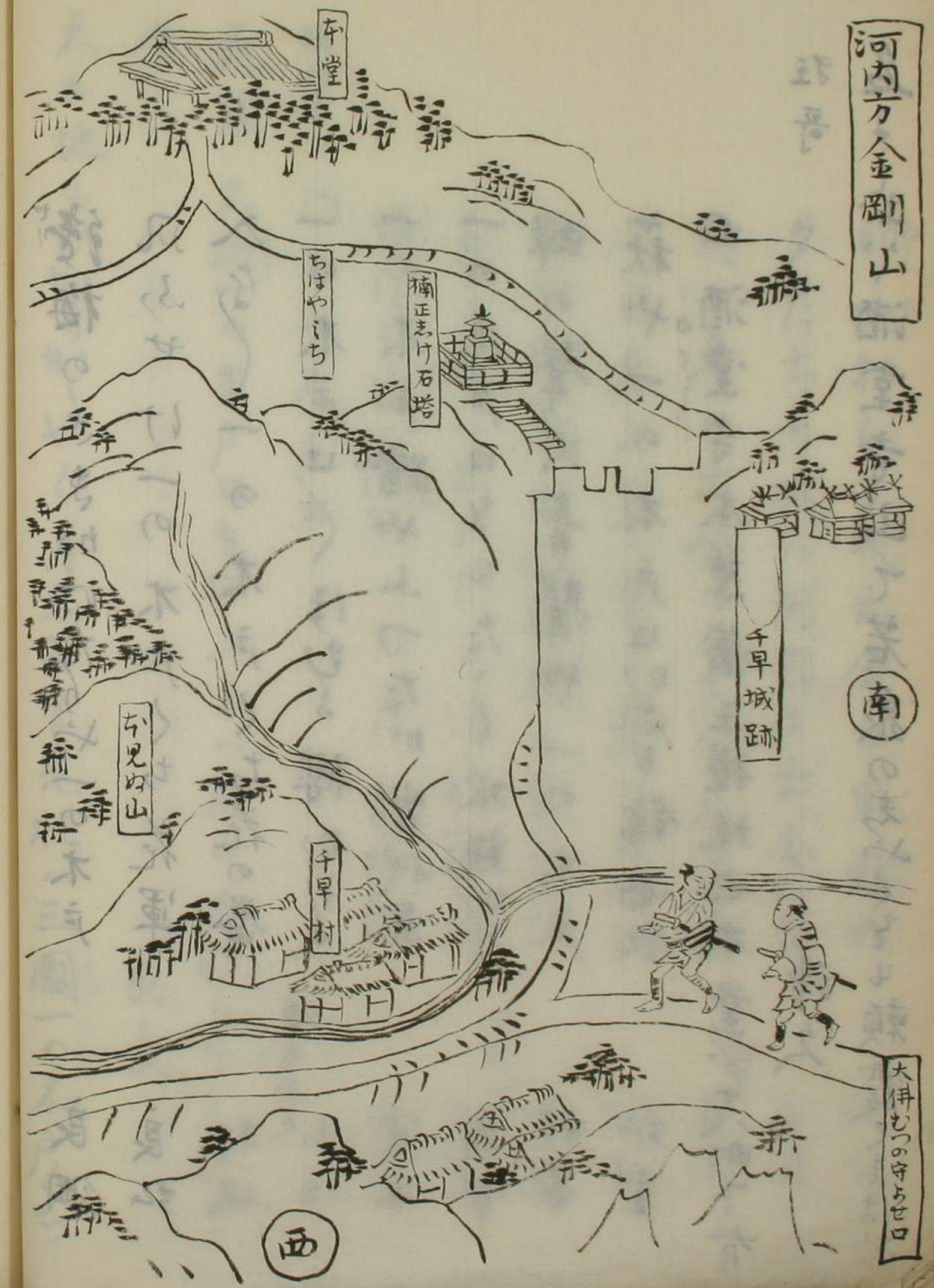
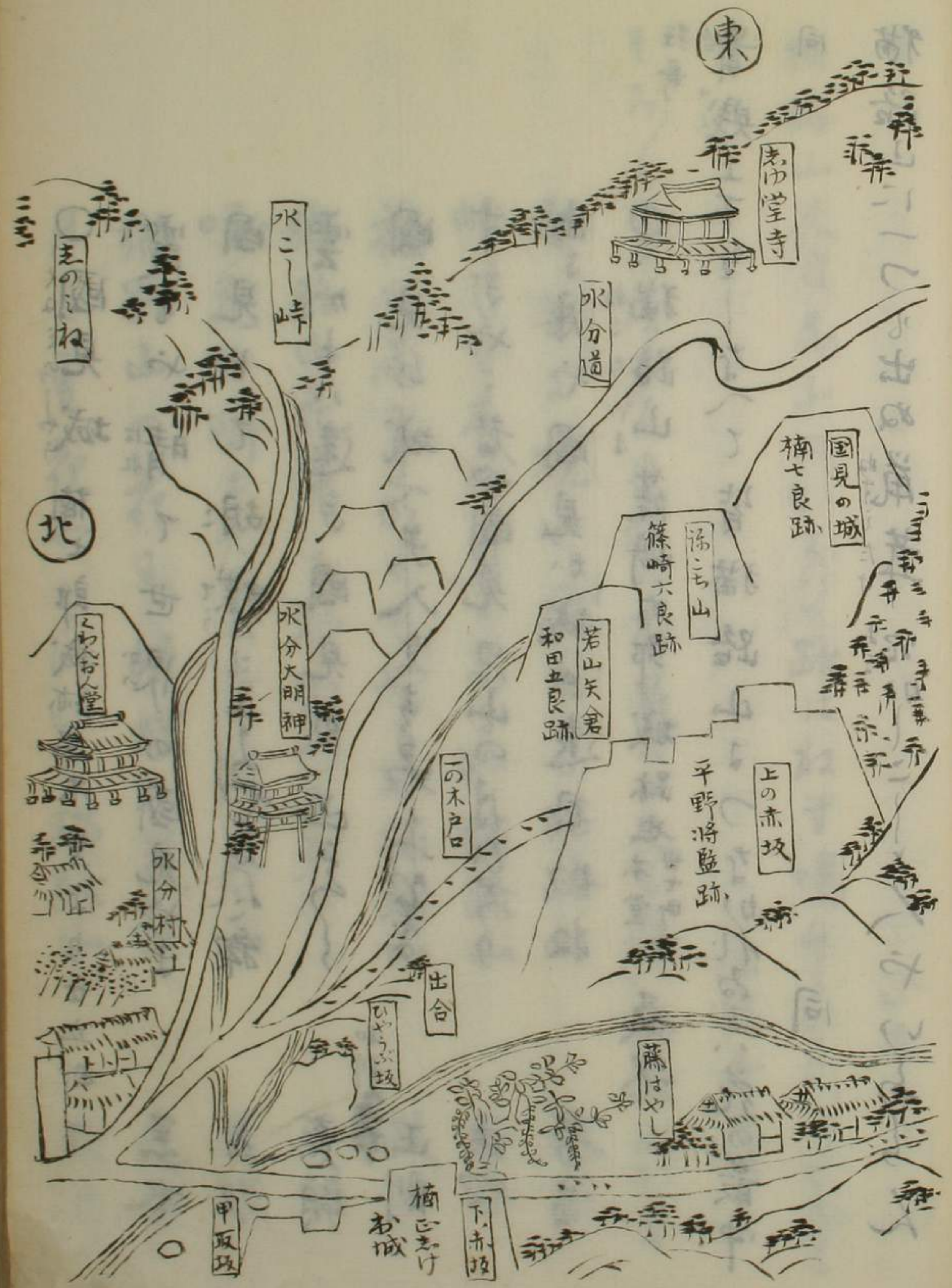
印地打もるや出合の里はな離れ
 政公
 夕たちの水、河内、出合かな
 正俊
 村の名の出合、さそな天津ほし
遊女藻川
 人目忍ふ草葉、露の出合哉
 可圭
 風や行事出合相撲すまわりの草むをひ
 吉勝
河内山田色よき、出あひ、染るちくさ哉
 正勝
 頓作の出合や、一句月のいと
 唯正

狂哥 ○一の木戸口 一有

花軍大功一の木戸口をよみる、凡の手からなりけり
 良長
 天も地もひかりやく月志るを見れ、三國一の木戸くち

梅のさきかけたりや一の木戸
 良綱
 凡ふせけ一の木戸くち花軍
 良弘
 入なく一の木戸くち花の番
 林城
豊後玉来一の木戸口くほむる櫻かな
 正信
 一の木戸踏やふつたか皆代鳥
 宣休
 一の木戸口をみた、く水鷄かな
 易幸
 蟬の聲大喜聲や一の木戸
 好昌
 萩や一の木戸口かざる錦母衣
 弘重
 ○酒堂寺本尊藏玉権現也本堂十八町下有

狂哥 浄久
 名よしか、酒堂寺山て若衆の志やくをも頼霞くまはや



○國見城くみみのしや楠七郎城跡也本堂より廿五町下

霞もや晴はれて世界の國見やま 急水

國見とて胡蝶てつもすやまに舞 立以

雲かとい遠き國見の山さう 意朝和列

國見の城へ矢入をまゝやうつなま 正則

すぎやう者や國見の山の月ひとり 未以

出る月や國見か城の遠目かぬ 芳昌

○猫路山ねこぢやま篠崎六郎城跡也本堂が廿七町下 及次

狂哥 貴賤上下を一なへて皆猫路山まつなれるる花の最中

同 同

猫路山に一つも出ぬ嵐ねづいたけ茸あな穴あなかこしと人やいあらん

同 猫路山人目忍ふのかよひ路はぬす鳴さるるさつりとをな

同 法橋奇夢

同 春毎とも焼やや灰毛はいけの猫路山 政公

そろくとのほりて見れば木嵐ハ一足りな猫路山かな 好春

時くを木の目はあるや猫路山 政公

花も雨ささかりもやるや猫路山 政公

猫路山花軍もやかつをふ 正明

咲花や所またらのぬこぢ山 及次

猫路山の花も胡蝶や嵐舞 光吉

月と雪花やけいの猫路山 及次

そとへていなつ木にけし猫路山 性空

鯉かつをみかねこ地の山の三ヶの月 每雄妻

猫路山の月の嵐や雲かくれ 重次

月の嵐くらふなりけり猫路山 定親

嵐草たけ狩かりつくまかや猫路山 利常

村紅葉色や虎毛の猫路山 久任

化粧水けしやうとなまや雨の猫路山 重江戶継

雪小尾のなまやあまき猫路山 利房

○若山わかやま 和田五郎あかやま 矢倉あかやま 本堂アケシ 廿九所下

若山わかやま やこれアケシ 野老のらのひを矢倉 意朝

花をやるやまた若山の姥櫻 清勝

○本見もとぬ山昔一夜の間は涌出ゆいたか故ゆと見ぬ山かろと号す也

峯たけハハハ八社はちをを観音堂くわんおん十一面じゅういちめん観音くわんおん 市長いちぢやう 平等院びやうどうと号す

太子たいし香花かうか此山こゝまで切き奉備ほうび由よし木林屋もくりんより廿八町にじゅうはち上うへル

受夕

狂哥 花はなちらす狼藉者ろうじやくを推量おしりやうまにくめと風の手てもと見ぬやま

日 浄次

夜の間にまよつと出来たる山なれはもと見ぬ山よすそまよ方山

雪汁ゆきや志しかももと見ぬ山の水 清次

花はなは氣きのせくや本見ぬ山櫻 周永

あなひせよ本見ぬ山の櫻花 淳萍子

燈臺とうだいかると見ぬ山の櫻花 利常

今はつゞ見ゆるやもとくぬ山さくら

一雲

盛りの本見ぬ山よ花のえた

光伯

咲花い本ぬ山の榎木かな

如元

花の本見ぬやまとの心なし

義元

未揃て本ぬ山の新茶哉

二笑子

月夜も本見ぬ山の志けり哉

忠貞

たつた今本見ぬ山や雲の峯

未心

未揃ゆるもと見ぬ山の粟と柿

友和

是はさてもとくぬ山か今朝の雲

定久

大雲は木々の本見ぬ山路かな

政公

○上の赤坂平野將監城跡也芦谷の瀧口より

埋樋まで十八町水石寄手山の尾を堀切二丈餘

下樋有水止められて此城落けるそ森屋より十九町上

水の手をこほりもとむる城地代 立以

瀧の音もかれあし谷かあつ水 久任

○楠正成石塔本堂より千早へ行道あり

周國

狂奇

くちせしな其名も高き楠ハ石よなりてもおろき心根

日 友和

千早あるきつとも朽せぬ楠ハ石塔と威爰にるまをか

日 重継

楠かたきつるの證拠ハ雨も嵐も海せぬ石塔

狂奇

河列山田 正利

後さしけし見ゆる石碑の清せぬ実や多門のちり成らん
目

世にたかふ聞えて今に絶せぬ金剛山とくまの木か名と

○鼓か尾水越峠へ上る道有えんかうせんの方也

つ、みか尾や嵐の音も松はやし 光善

松か枝を藤やまき繪の鼓か尾 政公

鈴虫の音や神樂のつ、みか尾 同

○水越峠全剛山と篠峯と間也 谷川に
めおと淵あり

上りかぬ汗水越の峠かたよ 清凡

鴛鴦やちきりも深き女男淵 政公

○水分神社

神書に建水分神社と有五社中水分明神は日神月神

右ハ吳子孫子也鳥井楠正行自筆の額あり

南木の明神の社あり是ハ楠正成を神といはひ有由

官寺ハ十一面観音立像御長二尺一寸ちやうてうの作也

狂奇 正之

花子寝て起て舞ぬる蝶ハ一をいふんの神の告げ

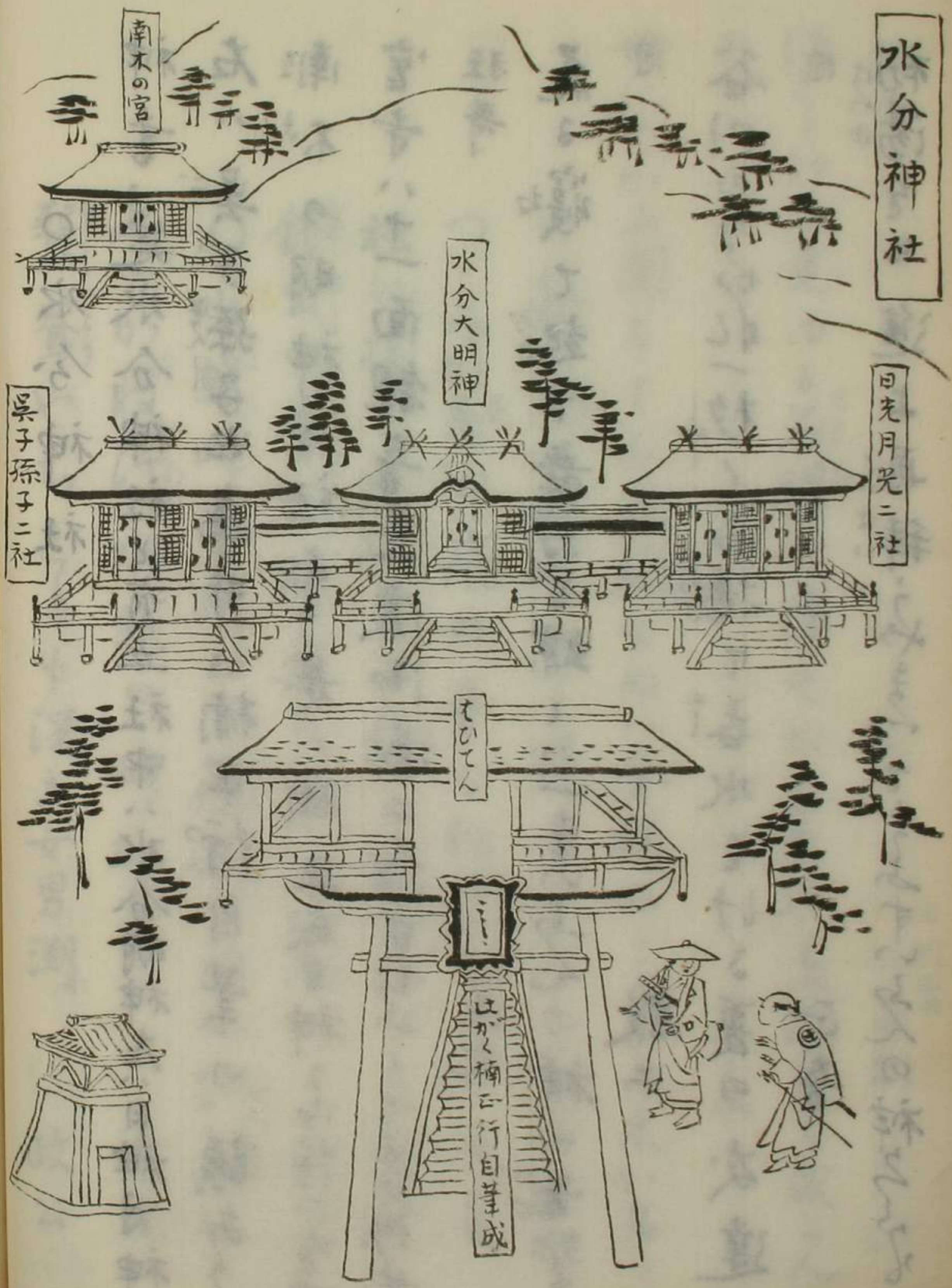
目 教二

谷川のちか北一移くみ揚て吞水とける夏の友達

目 正音

初湯をぬ進上再拜うまうてまふすいふんの神とくも

水分神社



にあり世もむいふん守れ神の春 貞室

水分や田らゆる民の守り神 同

すいふんの神風そふや梅の雨 浄久

波の流しとて水分の神々々 松緑

○水分谷寺十一面観音立像師長六寸五分あん阿弥の作

○飛水分超正寺十一面観音座像師長九寸五分景よき山也

○河野邊西福寺十一面観音師長二尺一寸 兼種有り世百あり

○芥生谷野老の名物 正音

狂哥
川人よ根をまきくかふ芥若れ沃多の水におまぬれ物

日
重次

ほとり詠久しうまきとく芥若れ孝はよ海のせとらうれ

雪消て七草はむや根せり谷 自延

鶯のより名の里か芥生谷 唯正

せりたよハ実名物なところ 周国

髪おとがほるや芥谷野老 一利

ほきやつめ野老も髪根芥谷 友和

○馬谷観音寺十一面観音立像巾長三尺 重次

馬谷の花見や馬次観音草

○木林屋常念寺正観音巾長二尺四寸

○神山体預堂十一面観音巾長三尺三寸餅つき山と云有

枝やき餅つき山のうす紅葉 政公

○東条川 貞室

狂哥

ちはやふる神山風の吹落て東条川に紅葉流る

波の聲や東条川の水せかき 久任

○寛弘寺大日堂馬場の地藏寄妙の地藏也昔ハ伽藍跡あり 河列同所

春雨は牛のよたれか大日堂 吉重

花よりもだんこてまつれば地藏 光善

めくこある神明佛田の死ぬかな 河列同所

はく地藏かつくや雪の綿ほうし 吉重

○日出目村光明寺正保院正観音 同

清明か堂の内蚊のちきやうまふりして置と也 十二月晦日

○中津原向福寺聖観音春日の作 薬師座像あ阿弥の作

○小吹村蓮花寺十一面観音巾長二尺一寸

○葛蒲か堂地藏座像即長四尺二寸行基即作弘法大師開起元來生補と書也

ふきそふる志やうふか堂の軒端りま 意朝

○観心寺

山号いのをさん檜尾山後行者の開基 縁起そんきハ実トつ惠との文章ぶんしやう

仁明天皇にんめいてんわうの御宸翰みんかん御判あり二条家関白孫嗣真寺弘法所作

本堂南向本尊如意輪觀音七弘法所作星をいた、ましまをり

長座像二尺五寸有賀利帝母天の社あり童子を守りふ女神也

坊数四十六坊あり弘法大師の額がくあり

後村上天皇御廟実惠の廟所の上の山有

後醍醐天皇の御繪音数通あり

飛行ひまやうの獨鈷とつこあり楠の文数通あり

実惠ハ弘法の弟子東寺の一の長者也

古き塔一重あり是ハ楠軍の時寄手取やみり九輪をお

ろしくわんを鑄いさせたるより太平記見たり其時一重残し

けるか護摩堂の上の山ハ社多し東関伽井有西の門きハ

井有南より西へながし川有岩間を落る白浪瀧のとし

わかをとり草やもえ出んひのを山 徳清

ひらく花これも何字とや観心寺 立以

春されハ花もともほやひの尾山 久任

花ハ鐘や暮々無常を観心寺 西鶴

蟬の鐘ハ鐘のひもやくわんをん寺 可正

接待せつたいやたつる茶釜の観心寺 重安



○ 甘南備村 白楊梅の名木あり

大よして大白うへつかたへあかる

狂哥 意朔

かんぢびのやまらゝの木のかゝるもの白きを實れハ世ハ盛也

日 友和

たかかけしかんぢびなるそ楊梅の志ろきハ爰の名木と聞

日 一有

仙人も童アもいろまよひぬるそれハふとも、是ハやまらゝ、

日 正之

大きなる白やまらゝ、ちさかなにて一つハまこれ酒のかんぢび

○ 佐備村妙見寺正観音 淨長八寸五分 行基の作

○ 竹谷 不動明王 淨長五尺 弘法淨作 佐備領

○ 河内 観音寺正観音 淨長一尺二寸 毘沙門淨長三尺

○ 中村 大日堂 薬師堂 春日宮 下り松 神木也

○ 百田 村 観音寺正観音 淨長一尺八寸 在ス

○ 龍泉寺 ぶらと上たてこある

○ 獲我 大臣の本願古へより此所龍池あり 悪龍住て災を

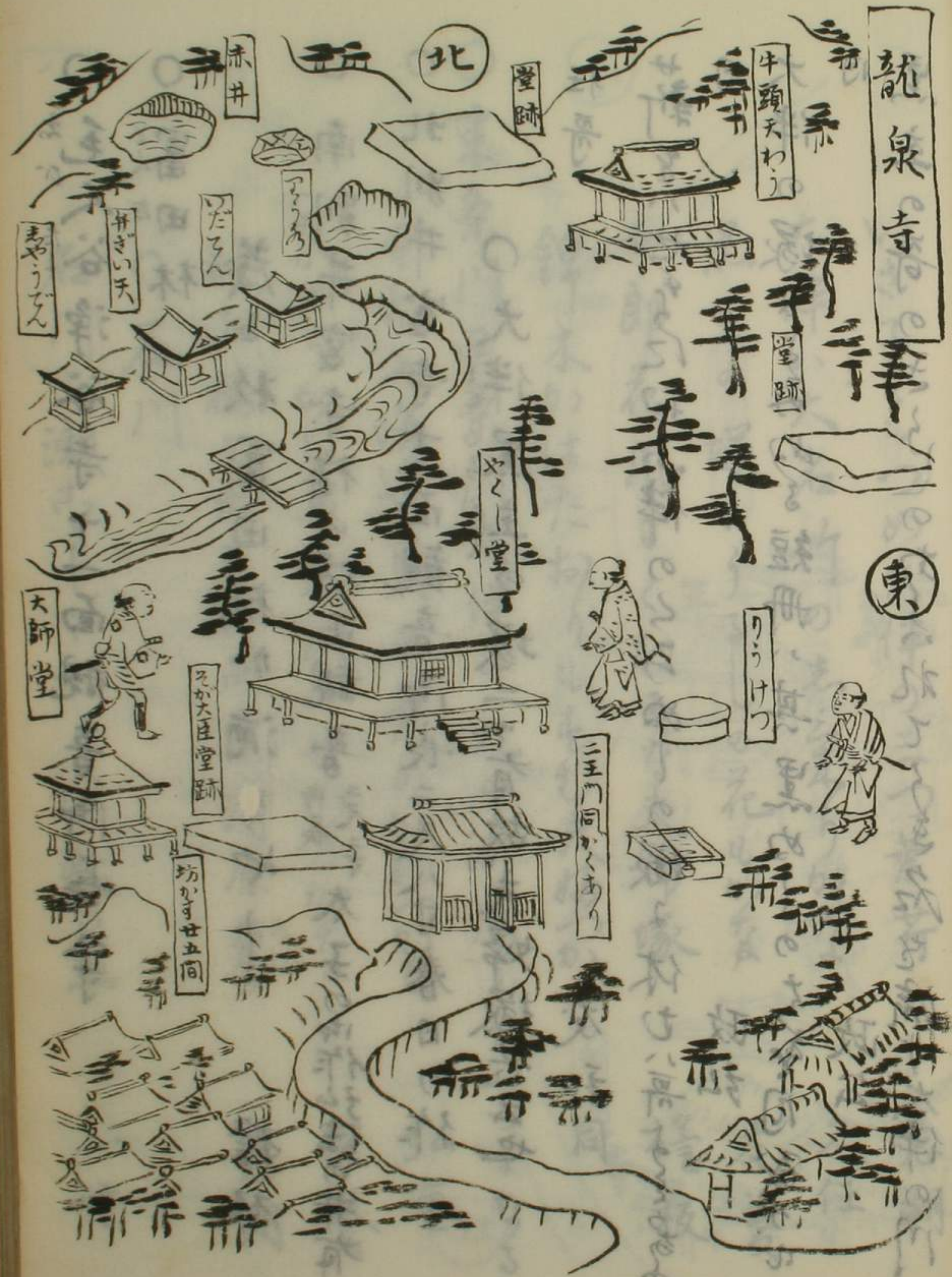
なせしにより大臣池のそこを見る事七日七夜其時就王人

のかたちをみる人々大臣の誓願たつとし我佛法はかつへき也

と則もとのかたちになり飛さりぬそれより水濁してから池と成

其かたりに寺院建立有其後大師加持者たまふ時本

の龍法味をかんし此池より歸り清水を出し其流れ今も



たえま本堂南むき薬師如来牛頭天王の宮有又池
 大小四ツ有は内大の池中に嶋三ツ有中ハ并夫天右ハ聖天
 左ハだてん也小三ツの内ニそこの左れぬ龍池有又東ニ龍穴一
 有^石有^石のふたして有大ひてりの折此所而雨をいのりて石の
 ふたをのけぬまハ俄ニ雨ふるとそ坊数廿五軒二王門有二王ハ
 弘法作龍泉寺と書たり額ハ東寺の長者大覚寺の筆也^{あり}
 龍泉寺の内中山寺馬頭観音座像御長九寸五分
 咲花ニ哥^ハ吟^ハ也^ハ龍泉寺 則武
 夕立の雲や吟^ハ也^ハ龍泉寺 惟貞
 雨乞^ハもをどりふり^ハ龍泉寺 貞弘
 雨乞^ハや名記天^ハあり^ハ飛龍泉 友友

○毛人谷浄谷寺十一面観音御長八寸

○富田林

茂る枚富田林か酒をや

摺板

○南別井宮寺梅の坊正観音御長太子の御作弘法の井有

○北別井宮寺十一面観音御長二尺八寸春日の作

○大伴黒主の塚ニツ有故夫婦塚共云也

狂哥

友和

廿新をハセちうにおふ伴のくらぬしの塚は休むハ哥よとてあふ

政弘

大伴の塚よよみぬる短冊ハ其黒ぬしのたを月成りル

政公

黒主の哥のさうしのあふれてうき名を流す大伴の川

いさ子とらつめ大伴の三つ葉芥

意朝

大伴ハ大名竹の志なきりかな

久任

黒主の塚よりうしの花もかな

友夏

女郎花風よくねるな夫婦塚

檜板

錦木のはたおりのむむ夫婦つか

同

○東条川西条川大伴の北の河原よて一つなる

はまの場や東西条のかわつたを

弘重

入日うかむ西条川のせかきかな

深峯

秋を穂は出をや西条河原藜

意朝

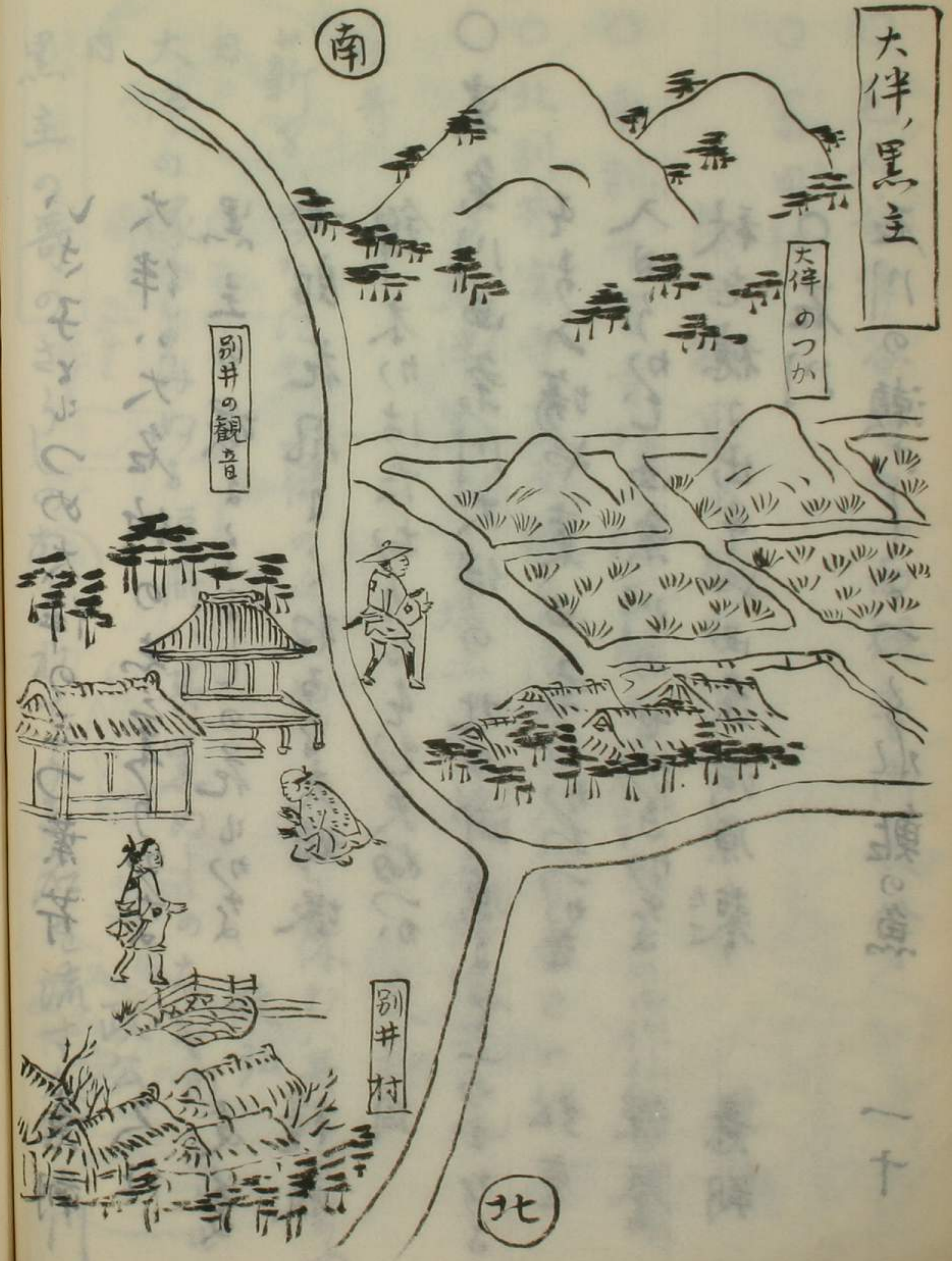
○石川

石川の瀬あしはつくり鮎の魚

一十

大伴黒主

大伴のつか



○白木村観音寺十一面座像師長一尺五寸

あふ人もけふや白木の弓はめ 常有

よそ目よ白木作りや花の宿 玖也

里の名の白木つくりかたち葵 可清

紙のほり出をや白木の弓のめ 貞室

圓辰せん里や白木の月の弓 利房

○平石村観音寺十一面観音三尺平石の城跡あり

狂哥 松緑

追てこむかを今もあるとにその名をかりやのこるら石

平石の観音の座が岩蓮華 良惠

平石をあてばんといふ礎かな 光伯

秋風をひらいてや爰かこの実 河内山田 重勝



○法花寺北加納村一在所^{カノ}跡皆法花宗牛迄^{ウチ}廻つたかせける
 所也戸たてか峯たかつきか峯和田川此つゞきの下^ノ梅川と云也
 狂哥 淨久

法花寺の山より出る和田川の流札題目となふくひを

久任

和田川の水くはふ新發意にそかんたうのあらん法花寺

花は吹風は戸立か峯もかな ^{天満} 政長

風よけや戸たてか峯といはつし 富吉

是ハ天の戸立か嶺か五月園 元由

かけかぬい戸たてか峯の三ヶの月 恒休

冬こもる里や戸たてか峯下風 意朝

狂哥

○梅川

弘重

打浪の花形と見るむの川の音はまことに鼓とそきく

梅川の岸は多しやくくひも菜

可清

梅川や春の物もたなから水

光伯

梅川やさかてりちる浪のはな

意朝

梅川や星さへらたる春の水

秀立

梅川の香は柔くや花筏

香隆

梅川はまろくよするや花の浪

可正

○南加納村東福寺地藏堂淳和天皇の御宇に海米大開基

本名は海米と云地蔵座像由長一尺五寸海米の御自作なり

○寺田村山下寺十一面観音御長二尺三寸

○大ヶ塚村観音堂善正寺正観音御長一尺一寸は観音ハ

下總國猿嶋郡ふたらくせん観音寺よりうつし奉る

曾我時宗安置せられし御本尊也

大ヶ塚ハ根来法師城柳の旧跡なり

花の時宗とまいらん観音堂

可清

法恩ましくさへ花や若草

可正

○一須賀村宮寺十一面観音由長七尺天神社一須賀大ヶ塚西方の氏神也

白梅や花の一屯かの御神木

一十

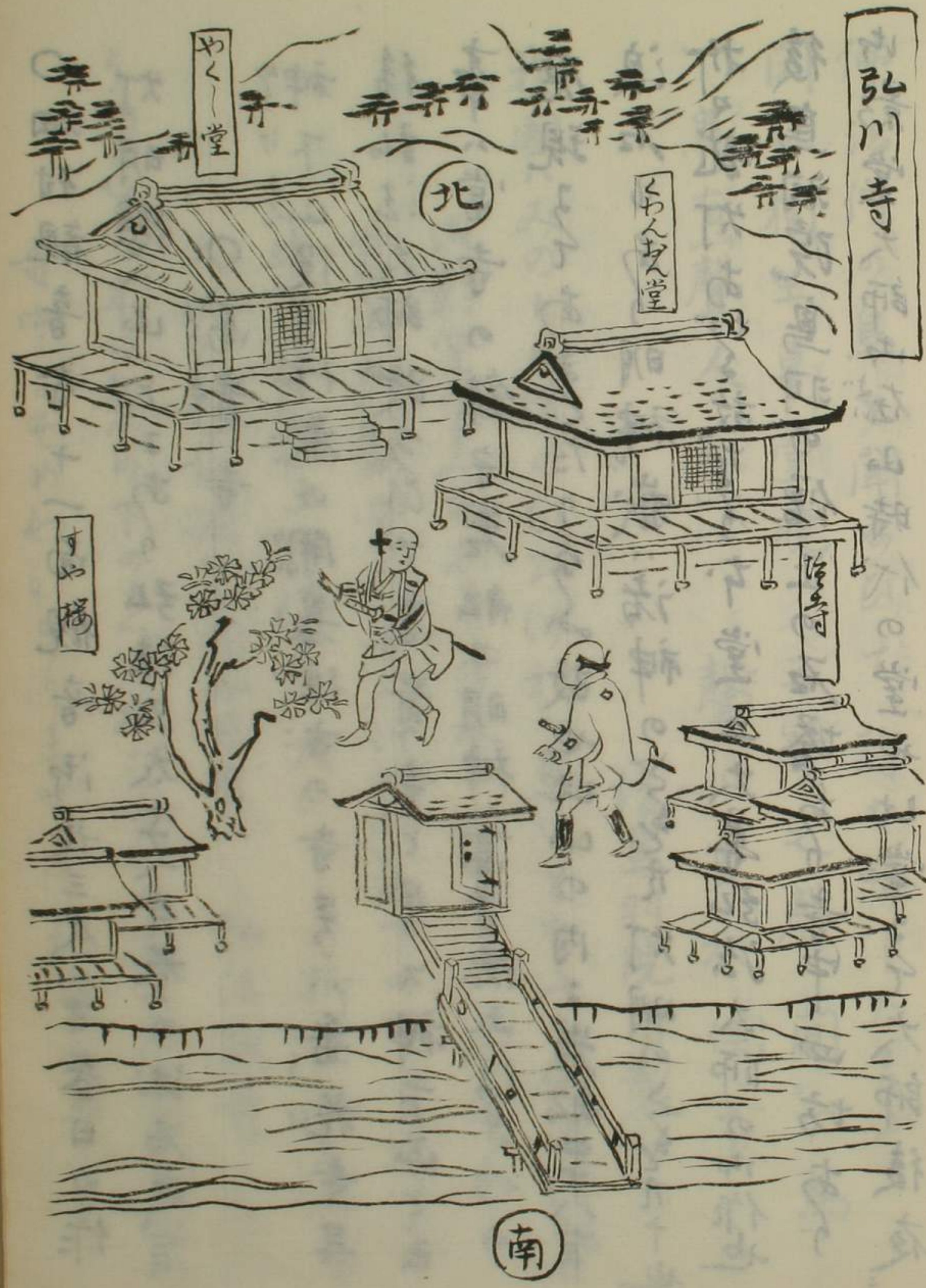
○山城村降幡大明神大寶寺正観音座像由長五尺弘法の御作

民やこゝろ雨ありはたの神あり

可正

お神樂の鈴ありはたの宮居かな

同



○持尾村宗音寺十一面観音御長三尺橋の大本有

狂奇

正音

枝折て手にもちの尾の橋はめてたいほくまなり木成けり

たち花を持の尾そなけ郭公

意朝

○弘川寺役の行者の開基山号龍池山と号す本堂は南向薬師
 座像御長二尺五寸役の行者の所作也清水原天皇一宿の御受
 想水産より金梨在りと御覽被遊御尋の上にて顯れあり金梨
 一粒の内五色分る後鳥羽院勅筆より大師の御自作也影木像二軒有
 六坊有西南院十一面観音御長一尺七寸大師の御作也すや櫻と云名木あり
 ぬる蝶やすやくさくら弘川寺
 保友
 花瓶は徳利かつほかすや橋
 松緑

○畑村観音寺十一面観音所長三尺一寸春日の作
灯明櫻ハ山ノ上ニあり弘法の太子へ日参の休石道有

○高貴寺

神下山役かみげさんやくの行者ぎやうじやの開基かいき往古わうこの寺号ハ香花寺かうけし其
後弘法大師あした改めひて高貴寺と号ス神下山と云
事ハ當寺の鎮守岩船の明神ハ高貴徳王ほまつつ
應現おんげんみてあまくたりまふ故也此山の内ニ岩船四十八有
浪石なみいしもあり明神あきかみの獄ごくハ諸神しよじんのごをた灯明とうめいのごをた也
折々せつせつ就灯しゆとうあがる故なり本堂ほんだう五大尊弘法大師ごおんの作也
後鳥羽院ごう鳥羽うの僧正そうじやうの石塔いしとうあり寺中じちゆう四坊あり
此影堂このかげだう大師だいし在山やま時代の堂也此堂このだうにて大師だいし後夜ごや

佛法僧の鳥を聞ひて詩を吟したまふ

閑林かんりん獨坐どくざ草堂そうだう曉あけ 三寶さんぼう之聲のこゑ聞き一鳥ひととり

一鳥ひととり有聲うご人ひと有あ心こゝろ 聲こゑ心こゝろ雲うみ水みづ俱ともこ

後鳥羽院所製

我國ハみのりの道のひろけれハ鳥とりとちふる佛法僧ぶつぽうそうかな

此影堂このかげだうのまゝま志こゝろを水みづのひむのな名木なあり

當山このやま所影堂このかげだうハ女人にょにんけつけつかい也下の本堂ほんだう迄いたハも

す善女ぜんにょ龍王りゆうおうの池いけあり大おほひてりの折せつハ池いけを雨あめを

大師だいし三さん鈷こを掘ほるふ關せき伽が井い有あ 弘法こうぼう詠えい哥か

うつうつここを木きの葉はの下したのうぐぐ水みづななかれの末すえハたえぬぬものか

寺中じちゆうニそめわけそめわけきりきりまぜまぜとて紅葉こうえいの名木なあり

三十番神の社ありはかたはらにふく石とてあり
むかひの山をほつたて山と云行者のほこ立石有
西谷弘福寺正観音師長一尺三寸五分春日の作

狂哥

時春

高貴寺にとり三寶を唱呵い風音つきて常樂を聞

政安

高き寺に佛法僧と鳴鳥のこはねをきけい愛も極樂

鳴正

あかりきに佛法僧の鳥まけ八耳のあをよりさむる煩惱

過に比大師堂うらふき有し時下の本堂へ大師のゆ影を

おろし開帳有男女共まゐりて侍りける時、正之

雲わけてのほゞ大師のゆ影をい女人におかむ高貴寺の月

浄久

日 そのわけの紅葉を見て

深わけの紅葉やこもる山姫のきまほせぬい錦なるらん

意朝

郭公やほそんよそなふ香花山

義元

なせなかねなけきかう貴寺の郭公

政公

高貴寺に鳴松虫や鈴のこゑ

安求

かづきぢをあかふぬその紅葉は

野廉

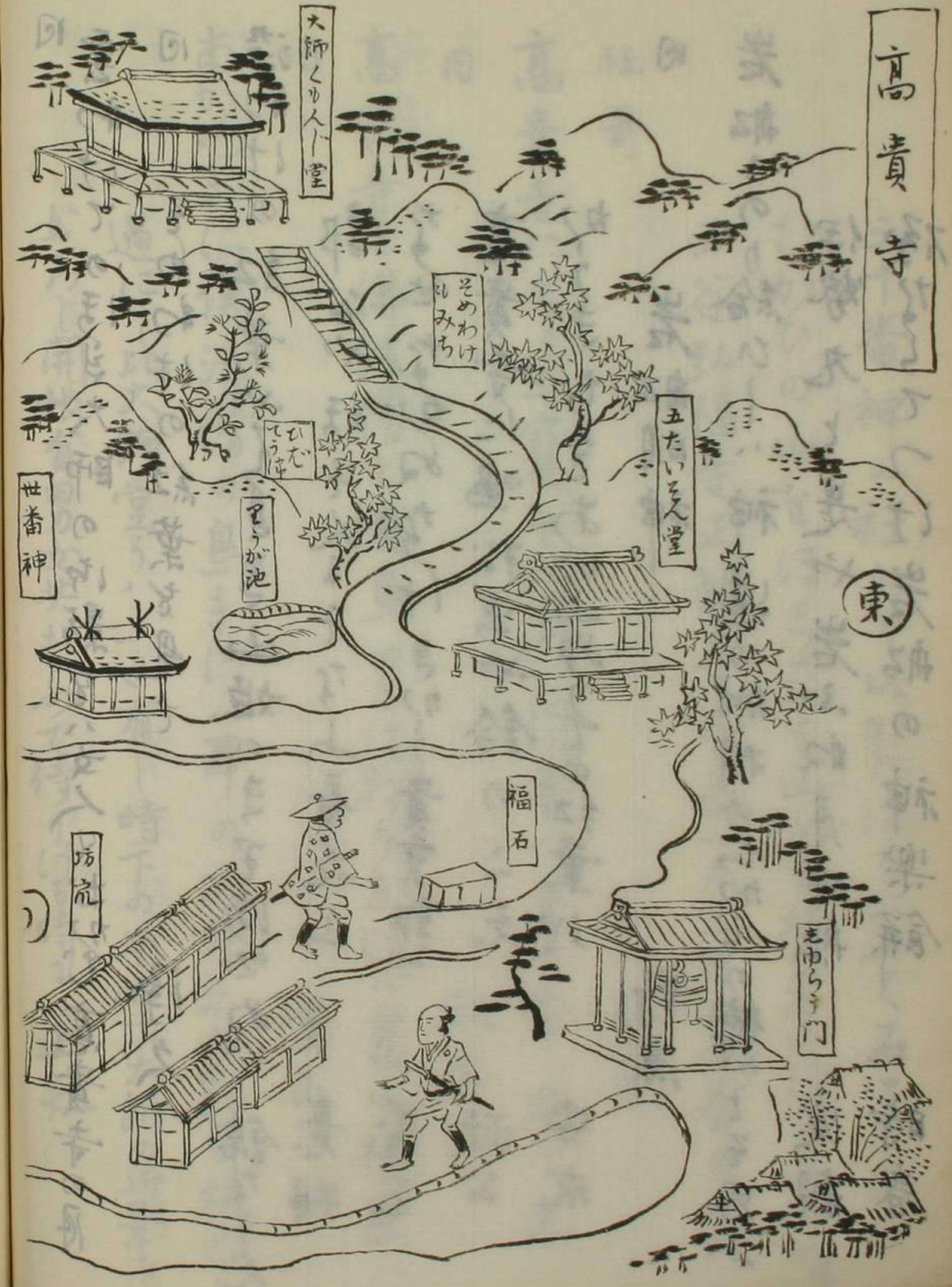
岩船のり給ひし神道の加持のちからの徳かと思ふ

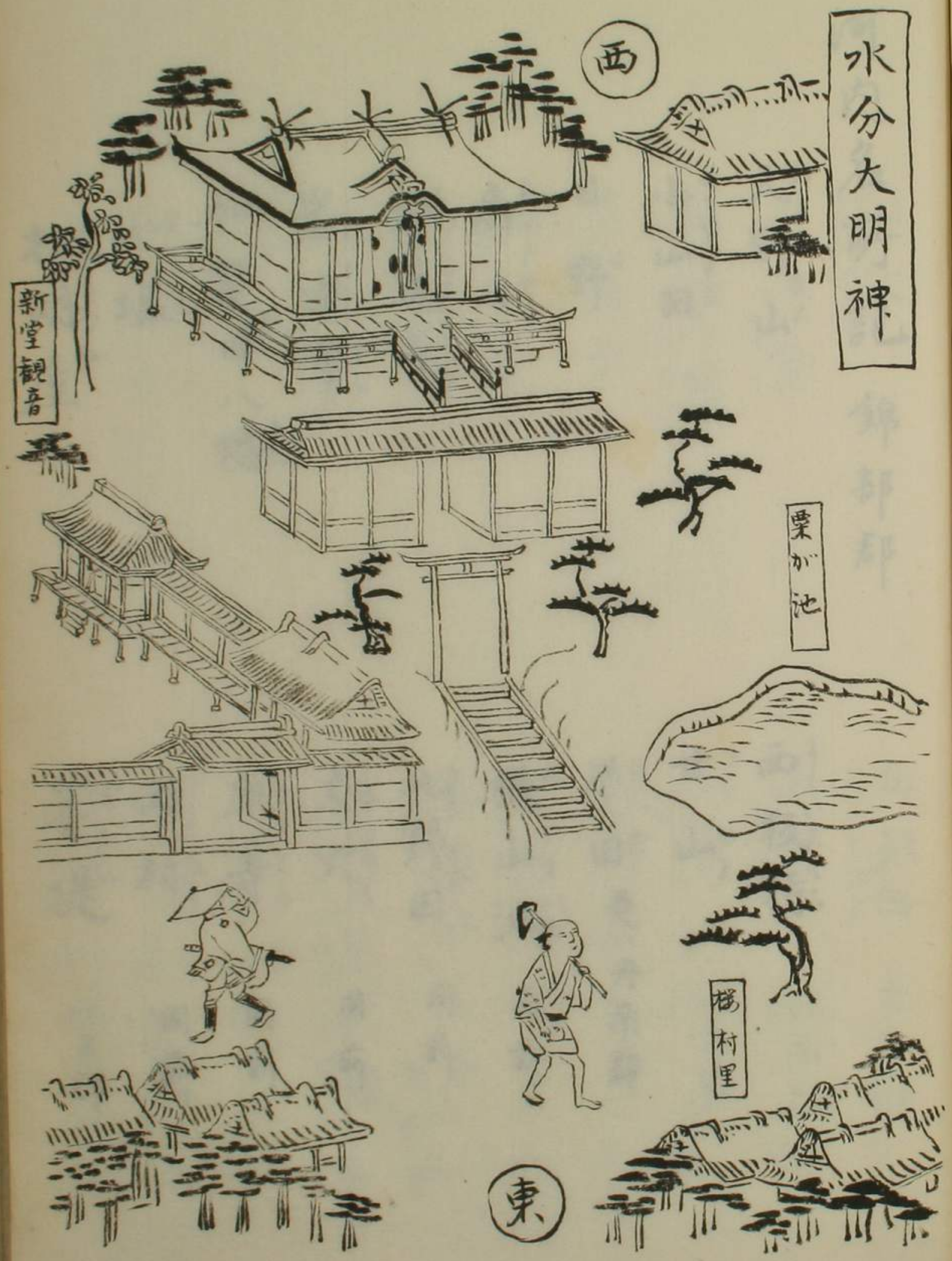
伊勢丸と是や岩ふぬ月の船

磯ならてつけ岩船の神樂餅

定親

時春





○下の水分大明神

喜志の櫻井太子の馬のむちろて
 櫻井や馬のたまかる法の水
 ふるきおんくむ櫻井やきりの陰

義政 一十

○喜志の櫻井太子の馬のむちろて
 河列古市

吉重

紅葉鮎やぬきて、つかむあわの池

一十

夜来てやぬけハ桶口小あか池

羔水

ちる花ははかなや水のおわかいけ

義政

○新堂村寶海寺十一面観音 仰長一尺四寸五分 阿彌の作 久任
 観音を見せハ古佛ておハ、まを新堂といふ名そらとハ
 ○栗が池聖武天皇の御代ニ堀せあひとなん

河内名所記 錦部郡

天野山 あまのさん

小山田 こやまだ

日野 ひの

扇山 あふきやま

光瀧寺 くわうたきでら

岩涌寺 いはわきでら

加賀田八幡 かかたはちまん

小塩 こしほ

松明屋 たいまつや

西板持 さいいたもち

廿山 つゝやま

半田是丹南郡 はんたにすゐなんぐん

狭山池 同前 さやまいけ どうぜん

北野田 同前 きたのた とうぜん

大六 同前 おほろく とうぜん

原寺 同前 はらでら とうぜん

西村 同前 にしむら とうぜん

菩提 八上郡 ぼだい 八上郡



石佛

片添

三日市

上田八幡

鬼位

河合寺

金胎寺

横山天神

伏見堂

波方

錦郡

高向

仲哀天皇御廟
上原有

西代

原村

長野村

向野村

市村

南向田

北向田

太村

菅生

大保

天武天皇御廟
同前

阿弥村
同前

河原城
同前

多治井
同前

小寺
八上郡

今井
丹南郡

西坂田
古市郡

西浦
同前

白神御廟
同前

輕大臣廟
同前

藤井慶俊
丹南郡

野中村
同前

野中寺
同前

安閑天皇御廟
古市郡

高屋城跡
同前

古市雪宮
同前

西琳寺
同前

○天野山

寺号ハ金剛寺行基菩薩開基の勝地なり其後
 弘法大師経行の灵場なり禅定仙院勅願の所也
 本堂ハ南むき大日の丈六脇立は不動降三世
 権作也塔あり観音堂薬師堂其外伽藍数多
 あり楼門日毗沙門持國左右ましましまた弘法の内作
 とそ坊数七十坊あり
 丹生明神水分明神孔雀明王の社其外社数多あり
 天照大神糸才天善女龍王是三社池のはた有我的社有
 聖武天皇最勝王経勅筆
 大職冠 自筆の内経
 光明后宮自筆の内経
 後白河院 院宣

高倉院

廡宣

中将姫 自筆の御経

後鳥羽院

宣旨

赤八幡の御影弘法自筆也

後醍醐天皇

綸旨

鉄塔 弘法唐分請來

後村上天皇

綸旨

楠一門の文数通あり

東寺の佛舎利九粒禁中より

御寄進 綸旨あり

紺紙金字の法華經壹部 弘法大師 御自筆也

頼朝公より 以来代々將軍 御朱印あり

後醍醐天皇の作らせり 西院の旧跡の坊有

内坊舎の本尊観音、春日御作地藏、弘法の御作となん

千手院千手観音三尺 後醍醐天皇の御作修善院如意

輪観音聖徳太子の御作座像にて六尺満願院十一面千手観音

市長三尺 安阿弥作智足院十一面観音市長一尺八寸 天野酒名酒也 柳松茸名物也

狂哥

あまのさけのさけるをきて

種好

そちならず誰のません天野酒色をり香をり志るわんそしる

山は立切をさやくまばあまの酒

可正

あたむる錫ふりさくま天野酒

檜板

くふて見よ名もあふたる天野柳

忠昌

背戸門はたろや天野釣かき

弘重

松茸の味も一ほあま野の

唯正

くふて見よ焼松茸ハあまのかな

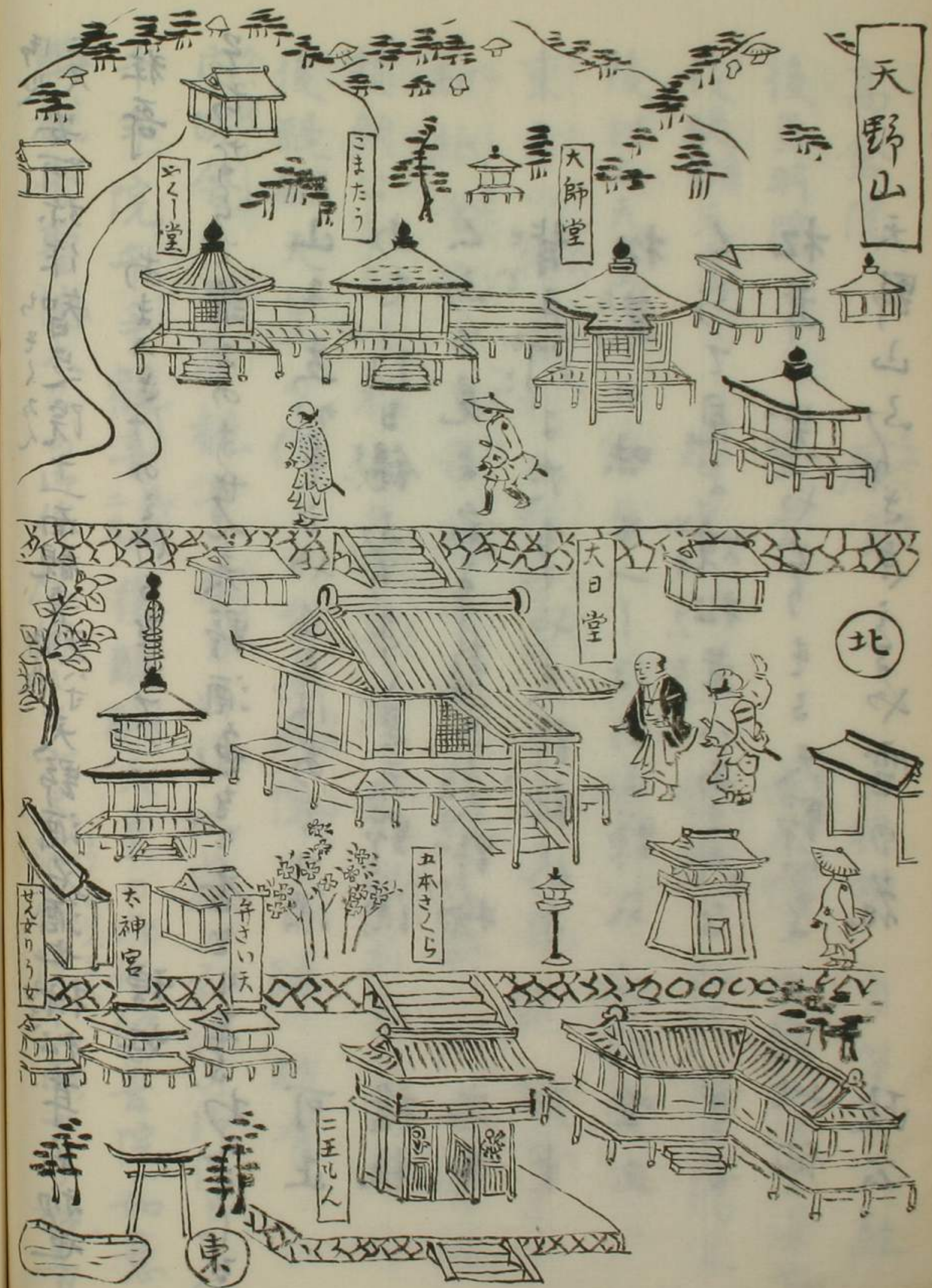
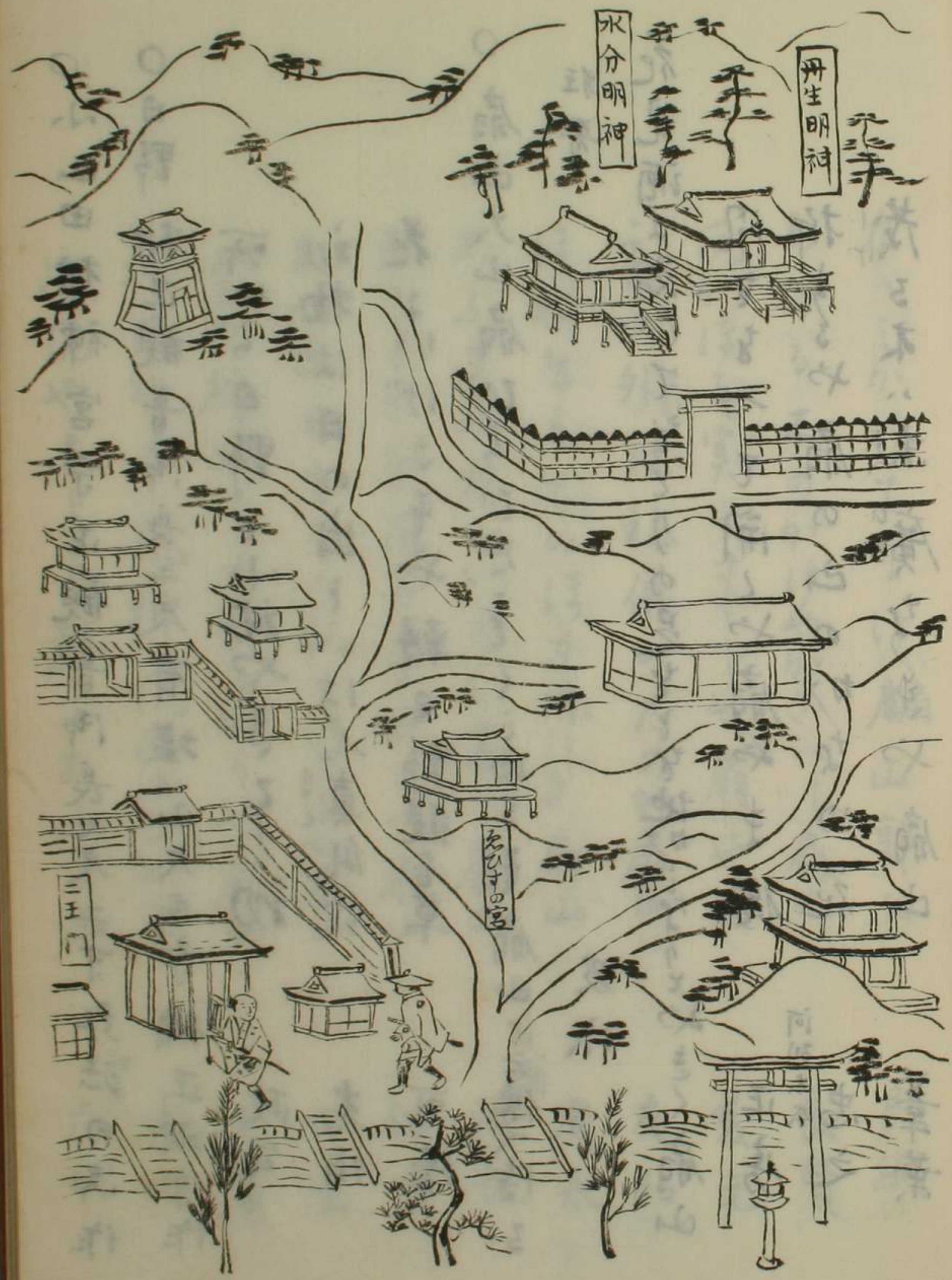
重安

松茸の笠やどりたる天野かな

以仙

天野山ふりさきさきさきや雪の花

政公



○小山田村神宮寺正観音御長七尺二寸弘法の御作
○日野村正観音御長二尺有塩山大日寺楠正成の作
所から日野く小袖やささる初
初物は日の出といは人真似式
花よかけさや朝日野観音草
可清

狂哥

及次

花見酒よ急ひてせとりの足をと地かたりとやきく扇山
風をもつて開くや扇やま櫻
折よるや扇の山のかなめ花
茂る木ハ枝廣なりや扇山
良綱
良賢
義元
友和
周永
政長
仲宗
可圭
久貞
未口
正次

河列木本

忠之

葦葉

た、こかけてなけ扇山郭公
あける木のかけやかき一扇山
凡かほる実もす、一や扇やま
夏の外は礼儀のためか扇山
ほねをりてのほき涼き扇山
あふきぬれいよく高き扇山
さ、しさを風の手やるつ扇山
あつき目ををのれとほらふや扇山
雲の繪やう未ひるかりや扇山
涼風や手風神凡あふきやま
涼凡や立よる影もあふき山

江戸

正次

誰も月をあをき見ると人扇山
かまはは人女是はな人老よ扇山
草も木も月も繪やうか扇やま
月と日をかためとや見人扇山
稲妻てひかるや金の扇やま
釣糸れ箱よいろや扇やま
置露や銀のかための扇やま
秋の色やつまくれなひの扇山
夕市ならて扇やまとに月の弓
扇山の繪やうの木の色葉ハ
月かけのさすや扇の山の腰

一雲
及次
浮萍子
毎雄
可次
重次
及次
野鹿
正儀
良綱
林城

紅葉すもや皆くれなるの扇山
ふる雪はまさて地ならし扇山
降つる雪や白地の扇山

正武
西謙子
林城

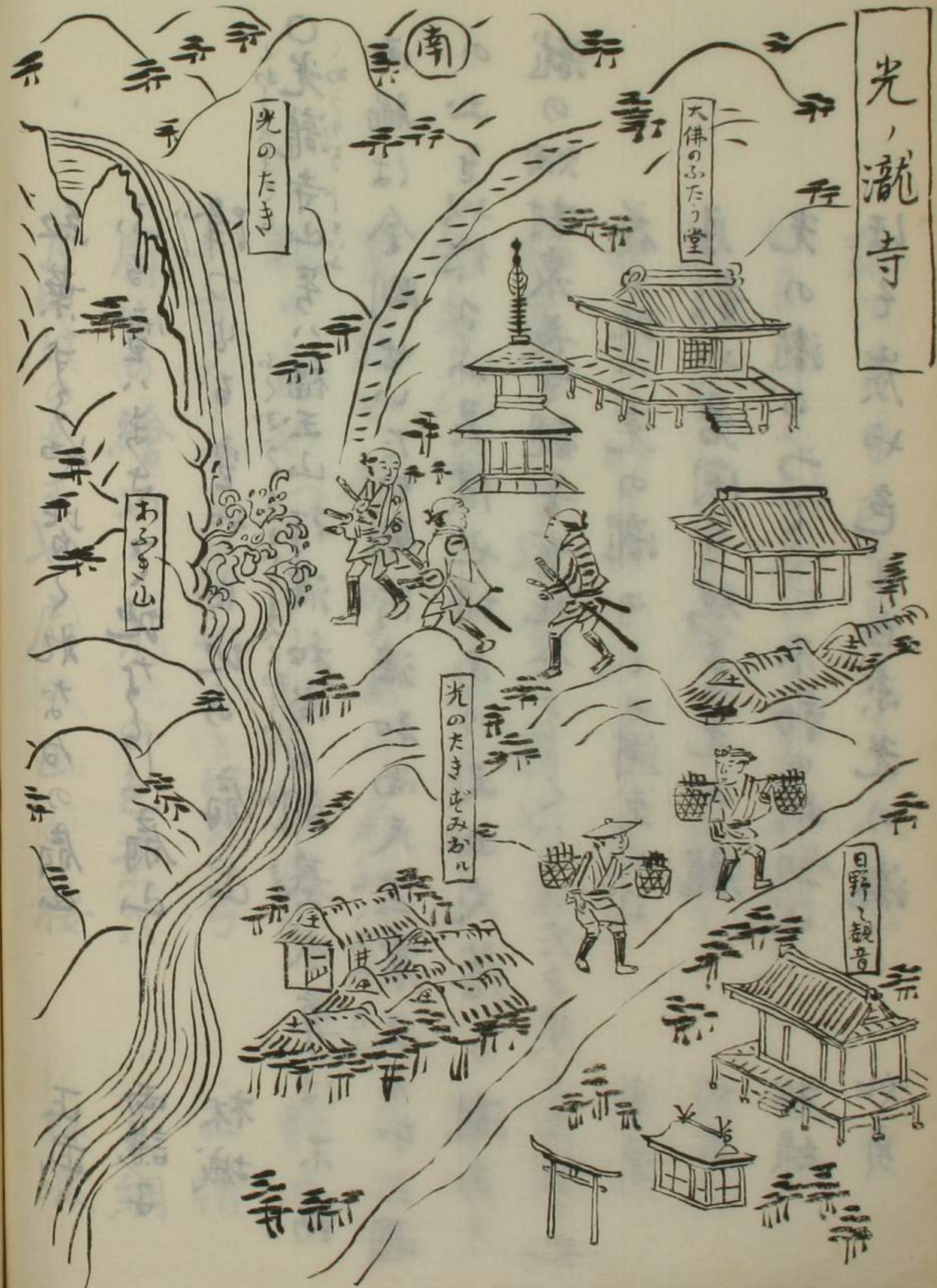
○光瀧寺山号ハ福玉山行満和尚くわつのだまてらの開基ふくぎやうくまきやうまんくわしやう基本尊かいは不動くわんりやう

両脇は金剛せいたか則行満和尚てんちくまん天竺震旦たん日本三國
の土を以作あふ其像也塔あり又立大落る瀧あり
瀧の畑村泉長寺觀音有此谷よりくはうのたき炭うりに出る也

花の比ハ光の瀧のこの酒名んが
月影や岩間を照る光の瀧
光の瀧のつらハ不動の利劔が
ほそ炭や色も白糸光の瀧

重栄
好昌
松緑
如貞

光瀧寺



岩涌寺十一面観音大師一刀三礼以作瀧あり

岩涌や花の瀧見の観世音

一十

○加賀田八幡 かたの内の西村 圓通寺石観音の梵字在 長三尺五寸

黒水

か、田よや北國早稲ハ出来物也や

○小塩珠寶山折言敬寺十一面観音 長一尺九寸 聖徳太子の作

○松明屋村

花も火をもともしくかたいまのや

堀 則武

送り火やまらしを照屯松明や

堀 政長

○石仏村弘法の作と申傳ふる

秀綱

狂奇のちの世をたすけめと拜むこそ約束かたき石佛なり

○片添村観音寺正観音淨長二尺三寸作不知

○三日市何の比まありけん高野まふてのありふし
此所より宿志たまふあるし所望によりて短冊給りけるぞ

野山旅客

鳥丸資玄

さ、のやの一夜のまくらわきれしと書残さむもあたしとの葉

月輪寺薬師有観音有

萬哲

狂哥
四日ともたぬ三日の市立に二日酔ふとさされやのうら

酒のこに立や弥生の三日市

意朝

桃の酒賣かや二日三日市

正寛

○上田八幡又急ほしかたの八幡共いふ山の頭急ほしと似たり故也とそ
一切経堂有金佛の釈迦在正法寺聖観音由長一尺六寸

うへ田村や茂りたる森林八幡宮
光伯

八まんの社領の苗をうへ田かな

保友

狂哥

曾立

道をから旅の折も見あけぬる山いひたりの急ほしかたかな

日

貞室

急ほしかたの山をひたりに見ろ折は五月の雨の雲ながみりそ

霞もやか、る貴人の急ほしかた

政公

急ほしかたにわくる熊徳うまき

浄久

三ヶ月の空やこゆひの急ほしかた

周永

雨の夜八月もなしくち急ほしかた

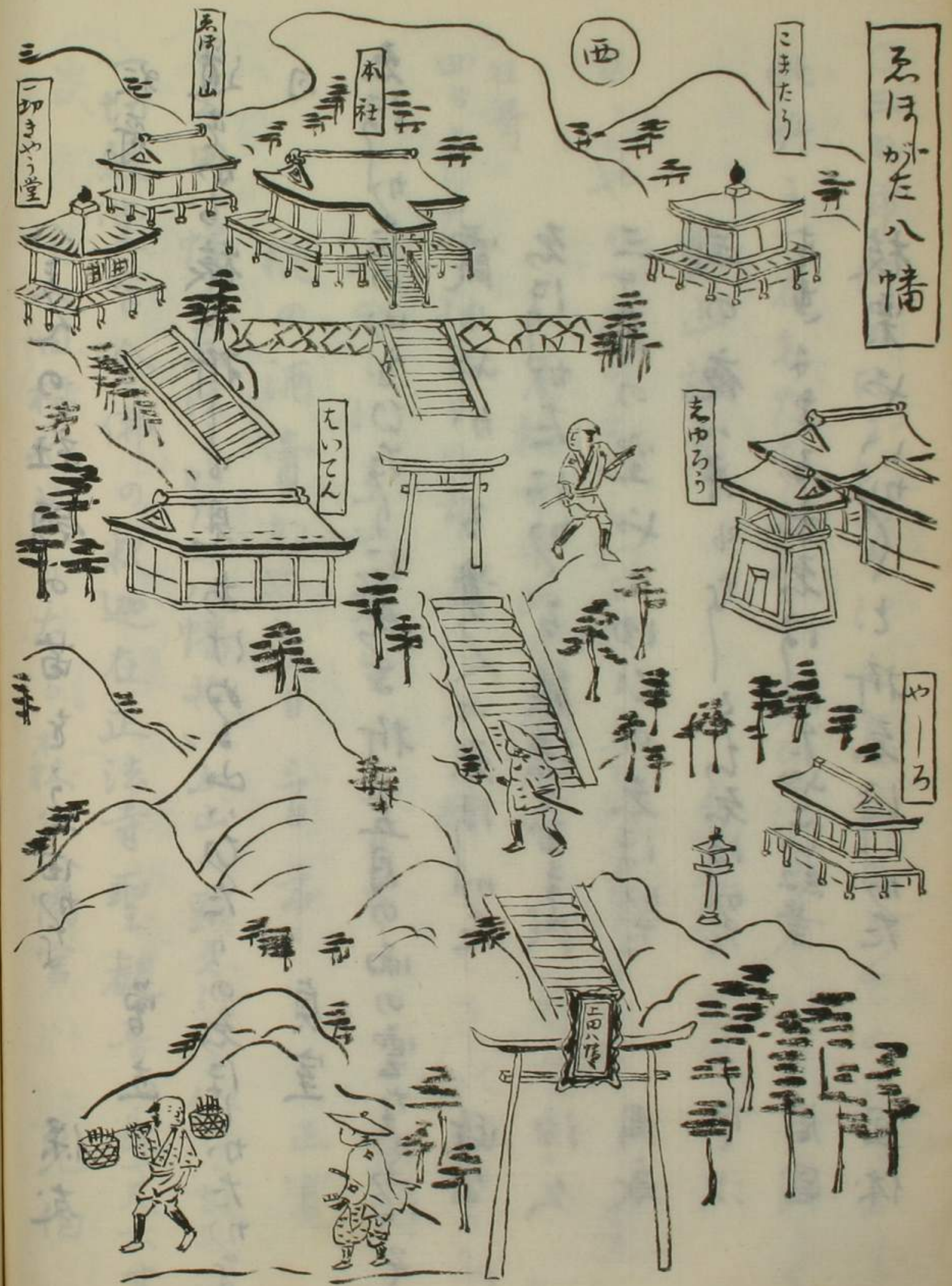
重次

まきまきる赤急ほしかたやこい紅葉

周國

枝栗やいかくと折急ほしかた

恒休



○鬼住昔ハおま住けるとしてたそろしき所有鬼の塚あり

常樂寺薬師座像三長延命寺石地藏弘法四尺作四尺

山号ハ佉羅山と号スいちたほけんとうりあん一谷拳頭庵如意輪観音太子一尺作一尺

鬼住と聞ル冷しき木陰かげかな 自延

鬼住のつらハ牙か軒の口 唯正

年越ハ実鬼住の夕アかな 周國

○河合寺天智天皇御願所山号ハ寶珠弥山役行者の開基也

十一面十手観音かいひ寺とつひなちらひ則行者や長作三尺寺あたり川瀧有 久任

山からすなりル無常や観をらん鳴ぬる聲もかわい寺のな

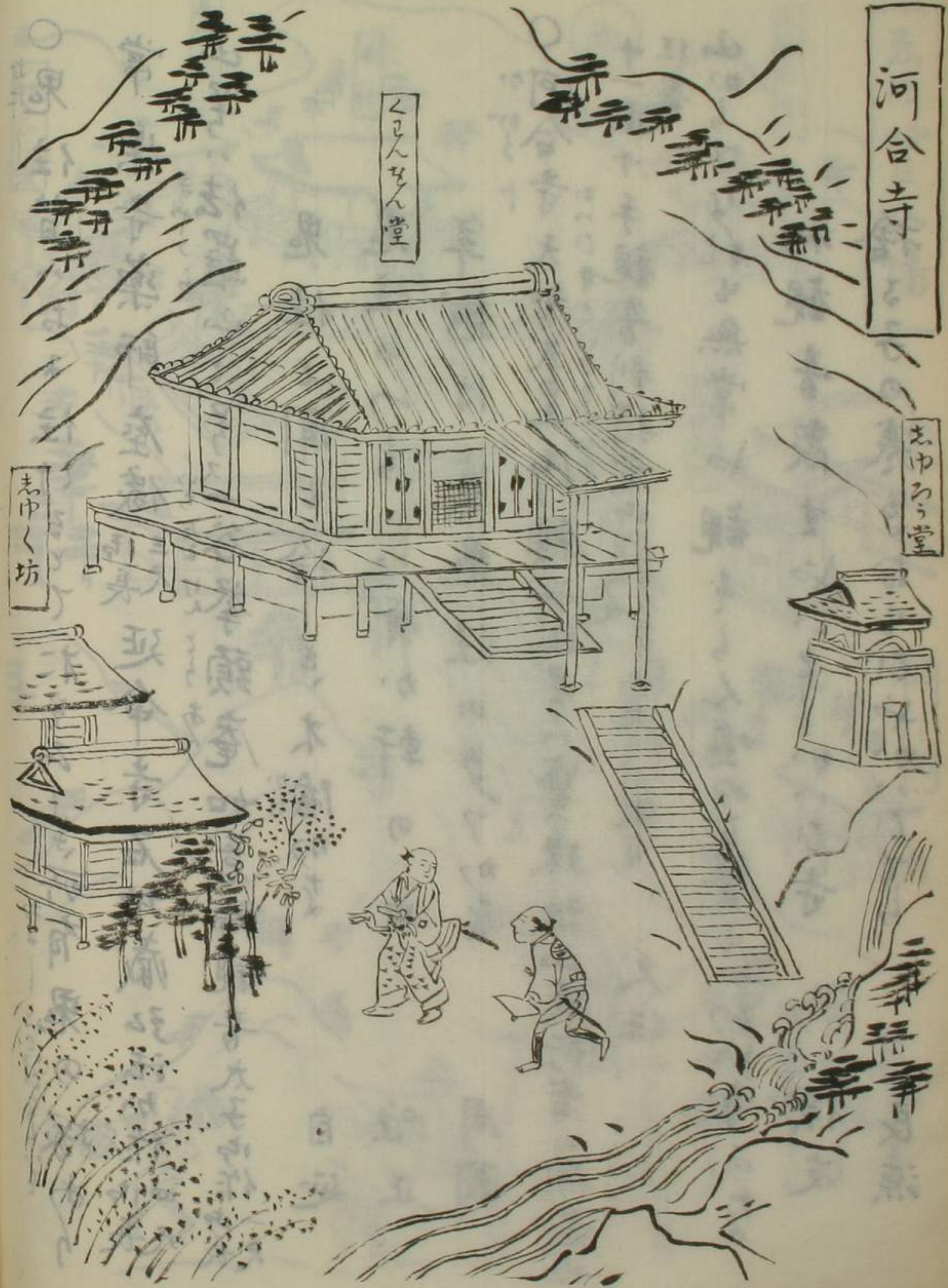
初観音衆生やいとーかいひ寺 保友

捨る子の寒きおもひやかひひてら 良源

河合寺

志ゆら堂

くしんぢん堂



○金胎寺きんたい昔の城跡ありふもと嬉たの村十面観音作志し礼す

○つむ花はなの支部しぶつゝか金胎寺 弘重

○月と日の影や陰陽いんやうふんたい寺 葦葉

○やとるよるは晴はやれ嬉たの村時雨 亘休

○横山大神大石より塩出しほ故ゆ穴塩寺しほ号十面観音じゅうめんくわんおん在あ長なが白炭出しろ

立たちから見る横山の霞かすみかな 周國

横山よこやまはけへ志しけりたる小萩こはぎかな 一之

よこ山よこやまに月つきや照ててるの白しろの色 扇斗

横山よこやまの嵐あらしは落おつる小栗こ栗かな 忠貞

よこ山よこやまや落おつるてるの姫ひめくるこ 每雄妻

横山よこやまの白炭しろか木きのたまま雪 指板



○伏見堂観音心寺如意輪観音座像師長一尺三寸
 ○おちかた 上方村蓮花心寺正観音わらふゆゑん 往生院ざくら 柘榴出ル
 ○うしほり 錦郊村人丸跡構音寺如意輪観音弘法作師長 一尺三寸分
のとりひ 人丸傳へ侍る
 夜はすからあかしかてらにたく物ハ錦郡山の妻木なりけり
 染色の山柳なるかにこほり
 一十
 光栄
 榎木の紅葉のころや錦郡
たごが 高向村惣持寺十一面観音師長 春日の作
ういほり 上原仲哀天皇内廟社拜殿石段石の鳥居有社僧有
十四代 観音堂ハ普門寺と号ス正観音師長三尺運慶ノ作

- 西代村岡田寺十一面観音 淨長二尺一寸五分
- 原村寶池山法音寺十一面観音 金佛 淨長六寸
- 長野村極樂寺正観音 淨長一尺五寸 役行者の淨作
- 向野村紫雲寺正観音 淨長二尺三寸 安阿弥の作
- 市村天神いざり松法幢寺十一面観音 淨長一尺七寸 太子淨作
- 夕涼のかけまや人のいざり松 唯正
- 影落る月もや共にいざり松 河列古市 吉重
- 南向田瓔珞寺釈迦堂有座像 淨長三尺五寸
- 北向田慈眼寺正観音 淨長一尺七寸 春日作牛頭天王社有 氏社也
- 西板持西福寺薬師 淨長一尺一寸 同村南座像 薬師有 淨長二尺五寸
- 廿山地蔵堂あり 正音

狂哥
美女つゝ、しまた手も経ぬ廿山の木なりのよきやぬ家よぬれぬ

つゝ山やまつとしまかハ差みどり

仲宗

花咲ハ考不もつ、やはたちやま

西教

廿山て見るや盛りのはたち花

周國

女郎花さかりハつ、やはたち山

芳昌

廿山れかゝらの雪や若白髪

周永

○半田薬師如来 淨長二尺五寸 安樂寺と号ス

○狭山池そこに石の樋有行基菩薩の作 浄長

尺八樋ハ慶長の比和田久兵衛作也天下おるて是 尺八樋の初りとそ

堀川後百首 苔ふりさやまの池のねぬあまのくるしけもなく鳴蛙かな

六帖 徳をてふさ山の池のこくりこそひけハ信をれぬやねとゆら

夕たちのさやまか池やふりたり

元信

夕たちのさやまか池やきこり

良弘

さやま池秋風吹や尺八樋

貞弘

さし入やさやまの池は月乃久ん

由久

いて、見よ豆のさやま池の月

唯正

銀羽をぬくやさやまの池の鷺

恒休

○北野田薬師如來淨長二尺太子の所作

○大六村昔ハ大六の釈迦有今ハ不動石佛又世番神社あり

○原寺大聖寺薬師如來淨長二尺

○西村観音寺十一面観音内長一尺一寸

○菩提村十一面観音内長二尺三寸 鬼子母鬼子母神社あり

○太村藏王権現堂寺号ハ神現寺本尊内長一尺余運慶作

○菅生天神

手ならひ子ともやまがうれ管虫

可房

○大保村河内鍋のはしまりし所なりといひ傳へり

雨くもか月也大保のなべの尻

忌水

○天武天皇御廟黒山ハ有薬師堂有はらこの薬師と云

狂哥

政公

をちう地のたつきも流ふを黒山におほつかなも鳴神の音

蟬の聲やはんまやはらしの薬師堂

政公

黒山といふまはる、月見かな

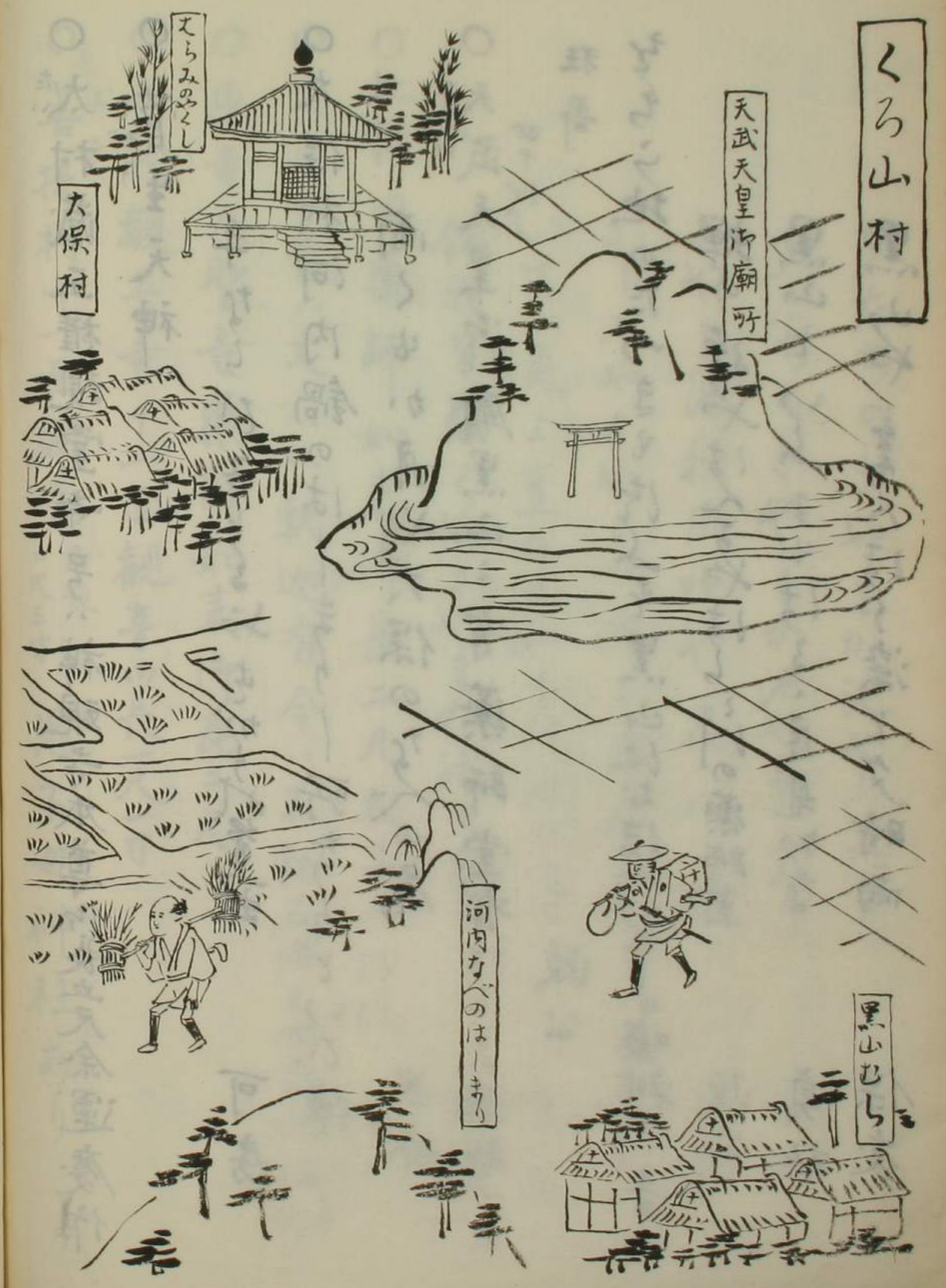
貞弘

黒山やまへんほろ漆と夕時雨

保友

くろ山村

天武天皇御廟所



○阿弥村昔ハ阿弥陀寺と号して十二坊有けると中比ハ六坊

今一坊有糸流と云謡ハ爰の事也登蓮法師雨ふけるにみの

笠着ては所へ来りわたへの聖日流の志を尋えんとそ

狂哥

一有

吹風いいきやうくんをるあいた寺の庭こそ花の雪仙なし

同

正明

銭ほとに世からせぬあいた寺のそのねくいや四十八くそん

あいた寺の藤は来迎の紫雲

晚翠軒

見え行やとつむりまられ糸をさ

貞因

あいた寺やつまくる珠数の糸流

良弘

阿弥陀寺や道引古年の糸流

良長

○河原城村むかしの城跡あり

奥鱗かきりんやいくさしたれの河原城

○多治井若松天神

狂哥

富吉

老松も又若松も末社もてまことに自由自在天神

若松のひとりより松露や神あり

好春

○小寺村薬師如来座像内長五尺三寸春日作如意輪観音所

長八寸五色の佛舍利あり

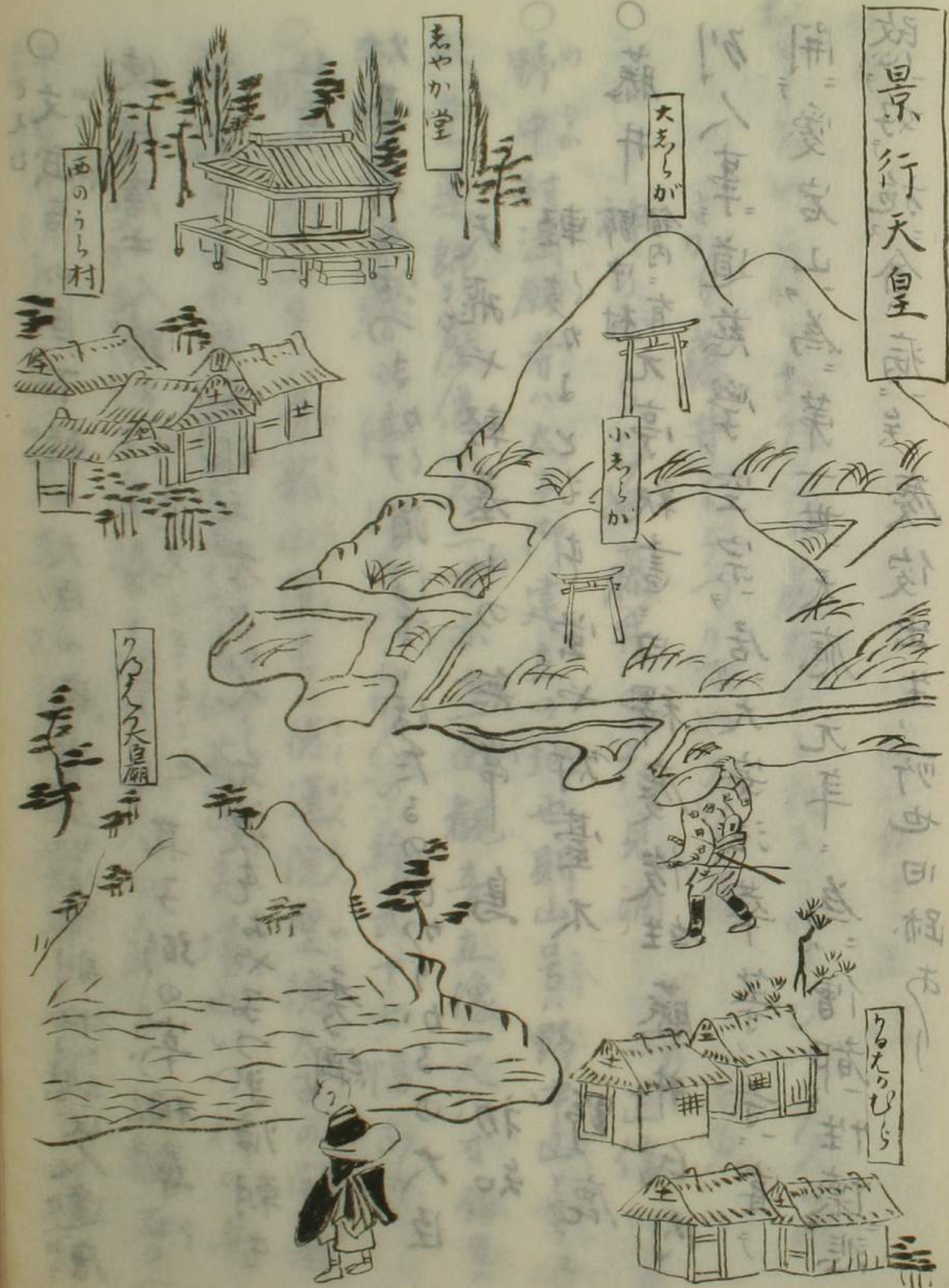
○今井村大寶山法雲寺惠極和尚開基本堂の

本尊正観音座像所長一尺六寸ほと脇立八歳

龍女若殿童子

今井村





○西坂田^{さいさか}観音寺十一面観音所長一尺七寸太子の位作
 ○西の浦^{うら}龍^{りゅう}卧^{くわ}山^{さん}寶淨寺釈迦堂十六羅漢^{らかん}堂の
 旧跡

○景行^{けいかう}天皇の御子白神の御廟志^しが山といひ
 なし^なら^らい^いを

ふりつる雪の柳や白神山
 卯の花や美多りの白が山
 正直のかうへの雪や志^しがやま
 雪埋^{ゆい}む廟や白神白神山

貞弘
 重成
 周國
 弘重
 政弘
 久任

○文武帝の臣下軽の大臣の廟有ふもとを別かるはか村と云は人遣唐けんたう
使時唐士人頭かかしはとうたい木をうらつて其子弼ひつの宰相さいしやう尋行
て王とつるなわらう孝をかんして渡をわたりおや子つぎ帰朝を

狂哥

秀綱

灯臺木の油つきかけ消はて、ほたるのひかりかるの大臣
天飛とひや軽墓山の無常鳥 初知

軽はかよともを堂や灯臺木

野鹿

○藤井藤井村元亭親書曰釋慶俊姓藤井氏内
列人事道慈學空宗居大安法華等寺嘗テ
開愛宕山為第一世天應元年為僧都性懷悲
改テ好施貪病矣慶俊出生所也旧跡あり

狂哥

河列野中正信

おもしろやうれもあたこの藤井そと花子うかるひよたんの酒

さかり藤井よりつりてやあがり藤

回魚

神の心くむや藤井の花見酒

正信

○野中村満願寺ハ太子御建立の地也則山号ハ野中山と号ス
本堂薬師座像一尺二寸亦十一面観音立像一尺八寸鎮守ハ
牛頭天王唐繪の佛ほきつらんの繪式十七幅あり
○野中寺山号ハ青龍山院号ハ徳蓮院聖徳太子の開基
藤我大臣の草創也昔ハ七堂伽藍だうがらんの灵場也れいじやういつれの兵
乱の時かありけん焼滅し侍りとなんあとりて久敷石を
計残りけるを爰に寛文の比阿闍梨あじかり覚英かくゑいと云有てかやう

の其場の絶ちん事をかなしき諸方にとらんあんなり貴賤
 の助力よりて先本堂の薬師堂建立なる薬師
 座像淨長二尺七寸太子の御作也追付子安のとらんを堂
 建立あるへしとなり子やものくらんをんゆ長一尺五寸五分金
 佛也南無佛の太子の御影あり毗沙門あり大黒有并文天
 の社有善女龍王のゆゑあり太子の關伽井奇瑞有
 行基并楊枝をもつて堀をふ井あり鎮守八幡の社有
 は所を今ハ野之上と申と也別院寶泉寺と云堂塔伽藍
 の旧跡有大坂軍の時真田左衛門佐はあたりちび野
 ほげか山陣を取一合戦して大坂へひき取由有老翁物語侍る
 咲花ハつりの收草か野中寺 則武



手向人とむきふ清水や野中寺
たむくろや野中に生る薬師草
かへき人を鳴りや野中寺

可正
可清
正俊

○安閑天皇^{二十八代}所廟高屋の城の本丸の高き山也所廟の
上は富士左衛門尉高正とやら人屋形をたて八百八の
城は作られ住城有りと也天皇の内とかのりや程なく
比城おちけりと申傳へ侍る南に藏王堂有北は不動有

狂奇
古城の富士にハをわけてハカハに弓をひかせこそをれ

殿手は露をまへたるたかやかな
月代のあとや見あくる高屋くら
久任
西鶴

○古市に雪の宮といふあり又白鳥の宮といふあり

やまとたけの尊路鳥ふなり飛多ひりと申つたふる
千世やふる市こそまらぬ雪の宮
義政

真白な飛ゆきの宮の鳥井バ
一十

○西琳寺

向原寺改^{あしため}号^{えん}西琳寺ト百海國之^{せい}聖明王^{めい}赤梅檀之

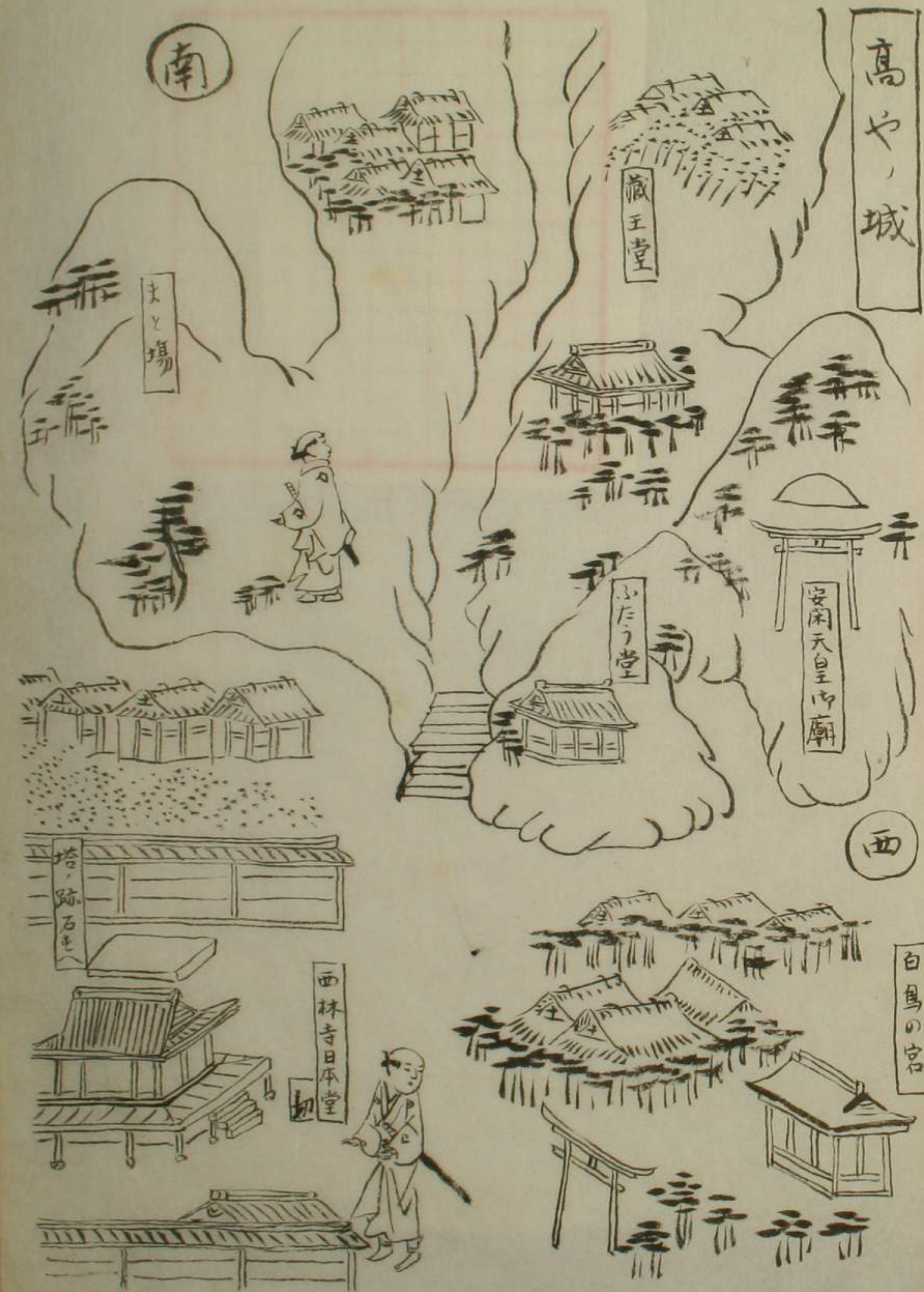
釈迦像^{毘首竭}作^{エニ}閣^ガ浮檀金^{タン}十一面觀音^音并^并經卷佛舍利

等初^テ日本^ニ渡之^コ献^ス欽明^キ帝^{テイ}天皇^メ勅^メ我^カ稻^イ目^メ令^シ守護

之^ヲ稻^イ目^メ造^ソ向^メ原^ノ宅^ニ安^ク置^キ之^ヲ即^チ改^メ為^ス寺^ト号^ス向^メ原^ノ寺^ト是

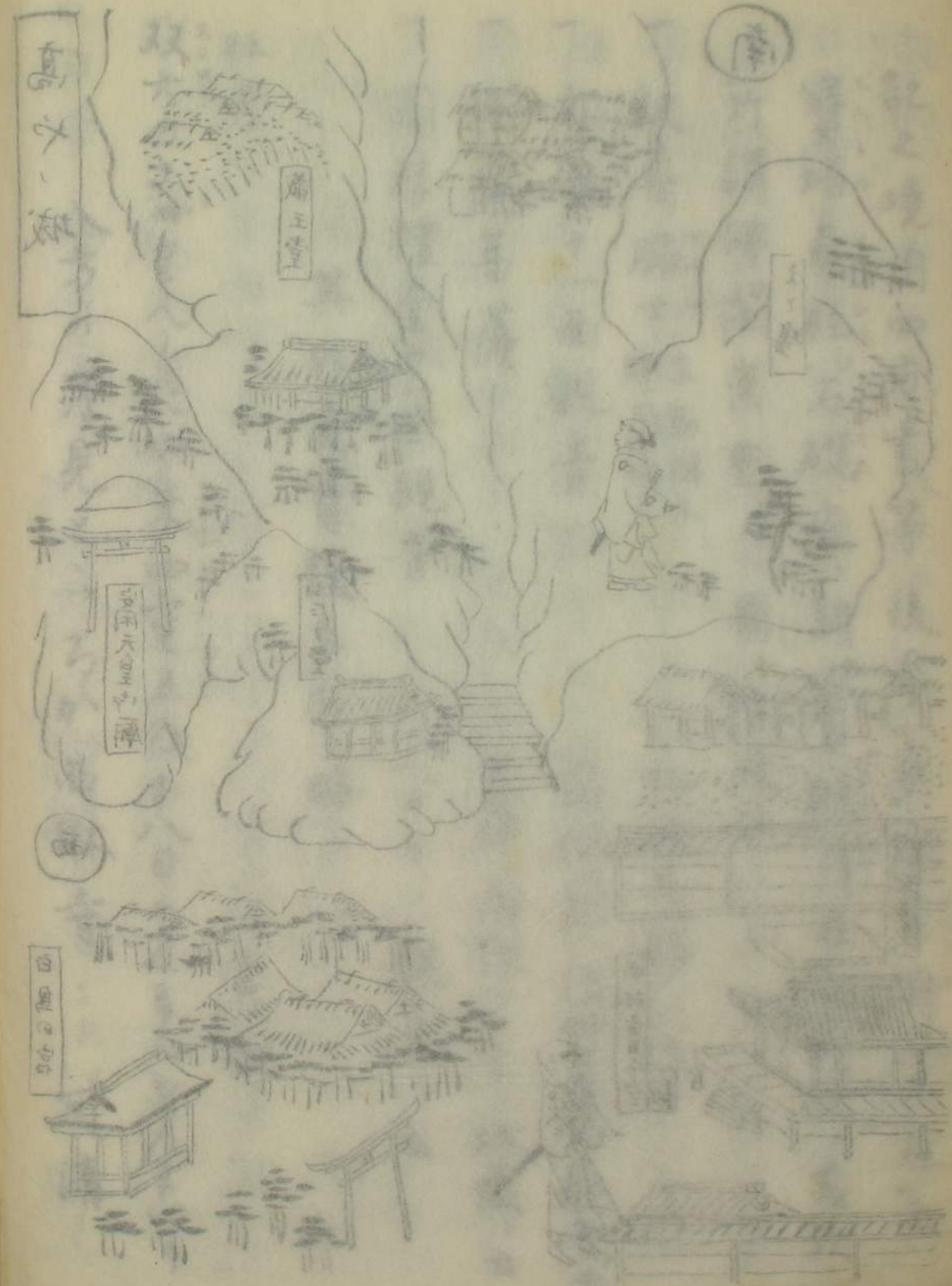
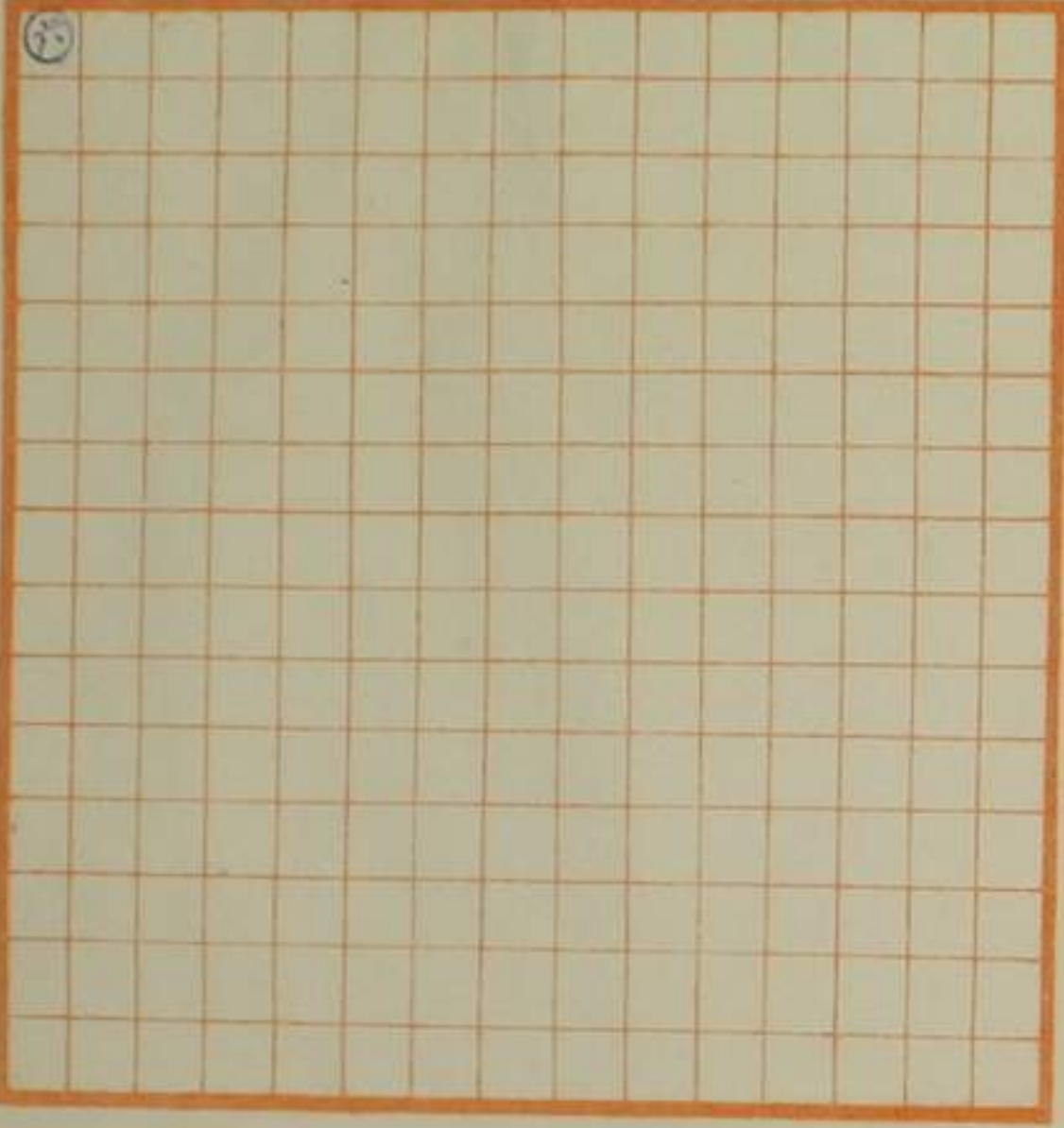
日本^ニ佛^ノ寺^ノ最^モ初^メ也^{ナリ}元^ノ享^ノ親^ノ書^ニ云^ク先^ニ天^ノ王^ノ寺^ト廿九年

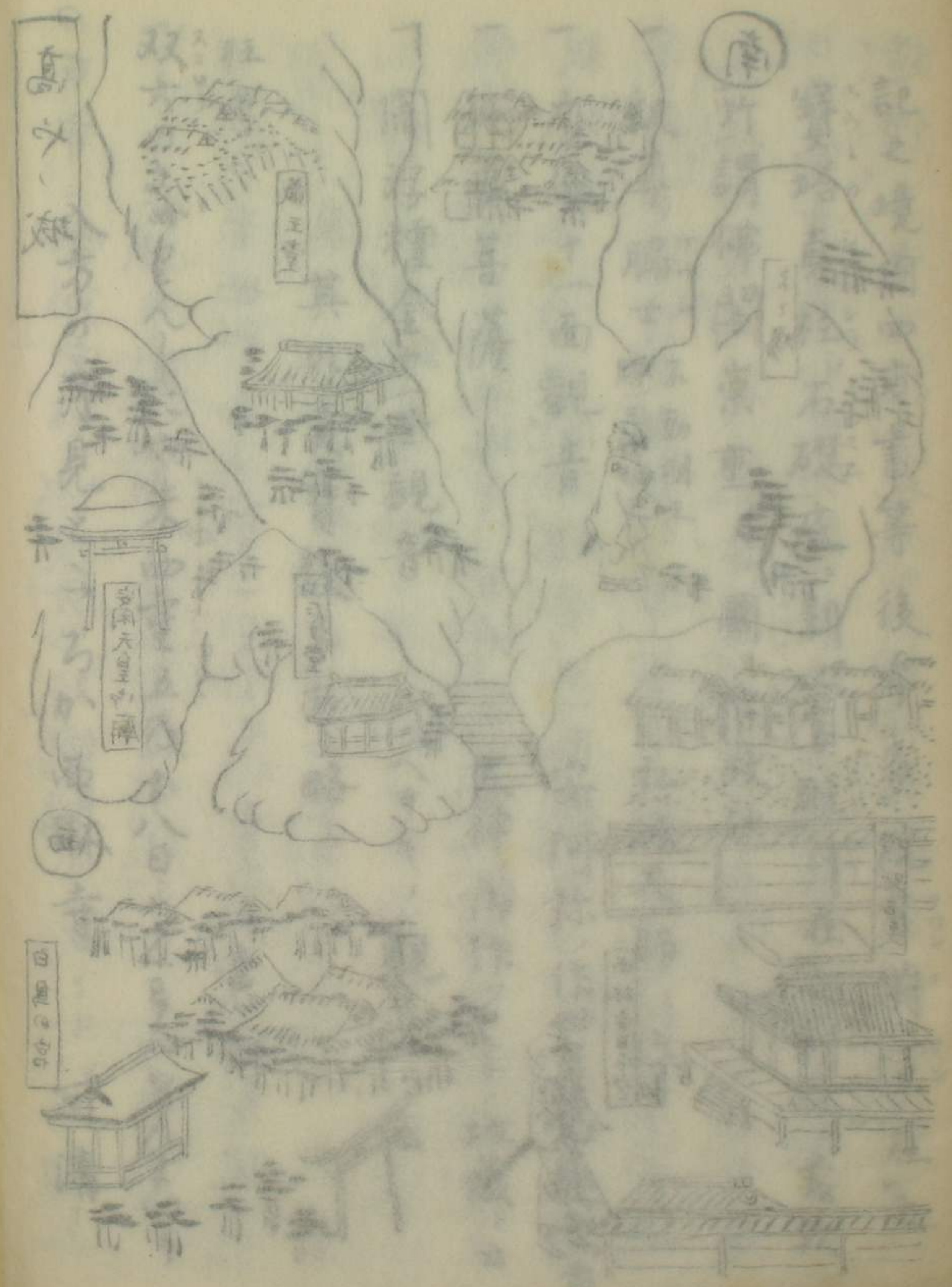
造^ラ佛^ノ立^テ寺^ト之^ヲ權^ニ与^フ也^{ナリ}云^ク三^ノ國^ノ佛^ノ法^ノ傳^ノ通^ノ縁^ノ起^ル等^ノ委



記之境內四方書等後宇多院官符宣在之
 寶塔真柱石礎底刹一字雕付在之刹柱義欵
 一所謂佛閣崇重國ヲ保故欵
 一釈尊脇士勝三世明王 弘法大師ノ作
 一座像十一面觀音 安阿弥ノ作世号孫六觀音云
 一地藏菩薩 天神ノ作ツトリノ地藏ト云
 一鬘浮檀金十一面觀音 ハサキノ觀音ト云
 真其外美寶數多あり略スバハ一也一十
 狂哥スコロウの言世々此の山にありて
 双六スコロウのさいりんにや朱四重五乃十八日ハ人々まじり
 〇古申入方の月見と云るが西琳寺より可清

5年 月





聖廟天皇山門

天王堂

觀音堂

聖廟

